

令和6年度 自己評価実践報告書

1	自己評価実践報告書		1
2	学校・経営運営ビジョン	【添付資料1】	8
3	学校ルーブリック	【添付資料2】	9
4	学校評価アンケート結果及び評価	【添付資料3】	10
5	生徒授業評価	【添付資料4】	16
6	学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価	【添付資料5】	19
7	各学年・部・教科 年度末評価	【添付資料6】	22

福島県立会津西陵高等学校

令和6年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立会津西陵高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』

「友と学び、ともに鍛えん」の校訓のもと教育目標を「目指す生徒像：他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒」、「目指す生徒の将来像：郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」と定め、地域に根ざし、地域の期待に応える学校づくりを推進している。

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

本校は旧大沼高等学校と旧坂下高等学校が進めてきた教育の良さを継承しつつも、様々な新しい挑戦をも厭わない姿勢を持って、本校に課せられた使命をしっかりと果たすための教育目標・重点項目を以下のように定めた。なお、重点項目は評価の3観点を意識することで、目標に基づく計画、実践、評価、改善が一体となっていくことを意図している。

○知識・技能

- ・地域的・社会的な課題に対する知識・理解
- ・情報・ICT活用の基本的な知識・技能

○思考・判断・表現

- ・現状を正しく捉えて課題を設定する力
- ・表現・発信する力

○学びに向かう力・人間性

- ・学びを振り返る力
- ・集団の一員として自他や社会のよりよいあり方を目指し取り組む力
- ・答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力

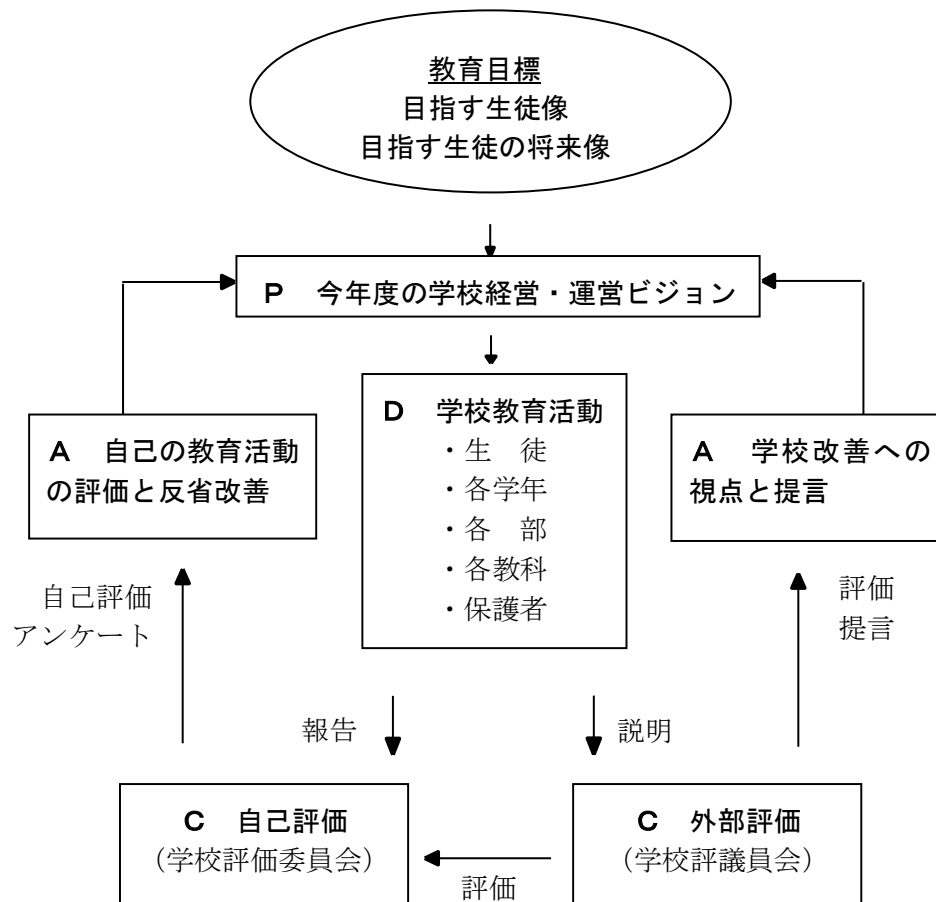
以上のような資質・能力及び力を育成し、生徒が将来、主体的な地域社会の有為な形成者として社会で活躍できるように素養を身につけさせたいと考えている。そのために総合的な探究の時間を学びの柱に据え、各教科、科目が互いに有機的につながり、より効果的な学習指導が展開できるように進めている。

(3) 組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

企画開発部を中心に、本校の果たすべき使命を念頭に教育目標に合わせて、生徒に必要な資質・能力及び力は何かを整理し、重点項目及び学校ルーブリックの原案を作成した。その後学校評価委員会や各部署で検討し、職員会議で完成させた。

2 校内組織体制について

(1) 組織図



学校評価委員会の構成

校長、教頭、事務長、教務主任、教務副主任、生徒指導主事、進路指導主事、図書主任、保健主事、総務部長、1学年主任、2学年主任、3学年主任

(2) 組織作成のねらい、意図

学校経営・運営ビジョンは、企画開発部が中心となって作成した学校ルーブリックをもとに学校評価委員会が原案を作成し、全教職員に提示し意見を募り決定する。

学校評価については、学校評価委員会が作成した年間評価計画に沿って、教務部と企画開発部、学校評価委員会が連携して各種アンケートを実施し、アンケート結果の分析と評価を行う。その内容は3回実施する学校評議員会で提示し、学校評議員から意見を聴取する。学校評価委員会が最終報告書を取りまとめ、職員会議で意見交換するとともに課題を共有し、次年度の学校改善と授業改善に生かす。

3 自己評価年間計画について

(1) 実施状況（令和6年4月1日作成）

月	日	自己評価	学校評議員による評価
4	1	<職員会議>学校経営・運営ビジョン（HP掲載）、学校評価計画	
	18	努力目標（各学年、部、教科）の提出〆切	
	22	<第1回学校評価委員会>努力目標（各学年、部、教科）	
	23	<職員会議>努力目標（各学年、部、教科）	
	27	<PTA総会>学校経営・運営ビジョン説明	
6	7		<第1回学校評議員会>
9	24	<第2回学校評価委員会>学校評価アンケート項目検討	
	26	<職員会議>学校評価アンケート項目検討	
10	18	学校評価アンケート（教職員、生徒、保護者）の実施 中間評価（各学年、部、教科）の提出〆切	
	23	<第3回学校評価委員会>中間評価（各学年、部、教科）結果・分析	
	25	<職員会議>中間評価（各学年、部、教科）結果・分析	
11	21	<第4回学校評価委員会>学校評価アンケート結果・分析	
	25	<職員会議>学校評価アンケート結果・分析（※HP掲載）	
12	3		<第2回学校評議員会>
	4	生徒授業評価の実施	
	18	学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価の実施	
20	年度末評価（各学年、部、教科）の提出〆切		
1	22	<第5回学校評価委員会>自己実践報告書、 年度末評価（各学年、部、教科） 分析、生徒自己評価の結果分析、生徒授業評価の結果分析、学校経営・運営の基本方針（校長）	
	24	<職員会議>自己実践報告書、 年度末評価（各学年、部、教科） の結果分析、生徒自己評価の結果分析、生徒授業評価の結果分析、学校経営・運営の基本方針（校長）	
	27	次年度学校経営・運営ビジョン（実践目標案） の提出〆切	
	6	<第6回学校評価委員会>年度末評価（各学年、部、教科）の結果分析、自己評価実践報告書、 次年度学校経営・運営ビジョン	
2	7	<職員会議> 次年度学校経営・運営ビジョン 、自己評価実践報告書	<第3回学校評議員会>
	18	自己評価実践報告書（※HP掲載）	
	25	<第7回学校評価委員会>学校評議員による評価書	
	26	<職員会議>学校評議員による評価書（※HP掲載）	
3	17	<第8回学校評価委員会>R7学校経営・運営ビジョン、学校評価計画	
	19	<職員会議> R7学校経営・運営ビジョン、学校評価計画	

(2) 作成のねらい、意図

P D C A サイクルによる効果的な実践と検証が行えるような学校評価計画にした。

アンケートの質問項目は教育目標やルーブリックの内容に関するものをバランス良く配置するとともに、各部署がそれぞれ評価できるように検討した。

学校評価委員会では、アンケート結果及び各学年・部・教科の評価について、全職員でその結果を検証する場を持ち、本校の課題を共有することができるようにした。学校評議員会は、評価アンケートの終了後に実施できるよう開催日を設定した。

(3) 自己評価年間実施状況（学校評価委員会及び各種アンケートの実施）

学校評価委員会が生徒・保護者・教職員対象の学校評価アンケートを10月に実施し、その結果を踏まえ、各学年・部・教科が年度後半に向けてPDCAサイクル（Plan, Do, Check, Act）による業務改善に取り組めるよう中間評価を行った。

生徒授業評価と学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価は12月に実施し、その結果を踏まえ、各学年・部・教科が年度末評価を行い、本校の課題を共有した。

学校評議員会は、第2回を学校評価アンケート実施後に、第3回を年度末評価後に実施した。評議員から寄せられた意見は全教職員で共有し、次年度の教育活動に反映させる。

II 評価結果の概要

1 実施方法等（評価基準 A：下線部箇所なし、B：下線部1箇所、C：下線部2箇所以上）

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
学校評価委員会	学校評価委員会	B	年6回	アンケートや学校評議員会等、各部署による評価の時期に合わせて計画通り実施することができたが、 <u>1月以降の年間計画に変更が生じた。</u>
学校評価	教務部	B	Classiによる選択式	質問内容や集計結果、分析方法等は良好。 <u>教育内容や実践実況を保護者へどのよう理解してもらおうかが課題である。</u>
生徒授業評価	教務部	A	Classiによる選択式	生徒からの率直な評価が結果に反映され、課題が明確になった。
学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価	企画開発部	A	Classiによる選択式	生徒の伸長度をはかることができる分析方法に変更した。成果を知るうえで大変重要なものである。
部・学年・教科自己評価	各部 学年 教科	A	目標設定 中間評価 年度末評価 計3回	中間評価で評価をCとした部署は20部署中3部署であり、昨年度の10部署から大幅に減少した。目標設定が適切になされた。
学校評議員会	教頭	A	年3回	評議員の方々は多角的な視点で物事をとらえているため、率直な意見をいただくことができた。真摯に受け止め、学校改善につなげる。

2 各アンケート、各学年・部・教科自己評価の実施日

評価者	内容	時期	担当
生徒	授業評価	12月4日(水)	教務部
	自己評価	12月18日(水)	企画開発部
保護者	学校評価	10月18日(金)～10月31日(木)	教頭 学校評価委員会
教職員			
部・学年・教科	自己評価	中間評価 10月18日(金)	教頭
		年度末評価 2月7日(金)	

3 アンケート実施状況

(1) 学校評価アンケート（10月）

	生徒	保護者	教職員
対象数	274	274	37
回答数	274	232	37
割合%	100	84.7	100

(2) 生徒授業評価アンケート、学校ループリックに基づく生徒自己評価

	生徒授業評価（12月）			生徒自己評価（12月）		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
対象数	88	80	105	88	80	105
回答数	87	80	105	86	80	96
割合%	98.9	100	100	97.7	100	91.4

4 評価基準について

評価		1	2	3	4
評価 基準	学校 評価	大変 そう思う	まあまあ そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
	授業 評価	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない

5 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

アンケートを通じた評価により課題を見出し、生徒・保護者・教職員の評価結果を比較・分析をすることで、課題解決のためのよりよい方策を見いだすことを目的とする。

(2) 年度末評価結果の分析、及び結果概況

- ① 学校評価 【添付資料3】
- ② 生徒授業評価 【添付資料4】
- ③ 学校ループリックに基づく生徒の自己評価 【添付資料5】
- ④ 各学年・部・教科自己評価（年度末評価） 【添付資料6】

(3) 総括（学校ループリック重点努力事項に関して）

①基礎学力の定着や主体的に学ぶ意欲を高めるために

家庭学習の習慣化が大きな課題であり、学校評議員から指摘されていることであるが、改善に至らない。生徒自身は、基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業であると評価している（生徒授業評価「設問1」）ことから、具体的な目標を設定させ、学習への意欲が向上し自ら学びに向かうことができるように、学習の大切さや学ぶ楽しさが感じられる授業に改善する。

②ICT活用の推進のために

今年度、新たな取り組みとして朝学習を取り入れた。タブレットを使用した学習や読書、新聞記事などに取り組んできた。また、生徒への連絡事項もネットワーク上で送るなど、ICTを活用した場面は多く、ICT活用力は生徒も教職員も高まっている。

企画開発部が中心となり、ICT活用に関する教職員向け研修会を開催している。生徒がICTの活用により効果を実践できるよう、ICT活用を今後も推進する。

③生徒が自分の学びを客観的に振りかえるために

本校は地域課題探究活動を学びの柱と位置づけ、3年が経過した。教職員の経験値が上がり、生徒は様々な課題を見出し、解決に向けてどのようにアプローチすればよいのかを地域の方々の協力を得ながら模索し、行動に移すことができるようになってきている。本校の探究活動は、探究テーマによっては次の学年に引き継ぎ、探究を続けている。深化していることも大きな特徴である。

3年をかけて行う地域課題探究活動をとおして、生徒の主体性を支援し、生徒自らが自分の学びや自分の生き方を客観的に振りかえることができるように、教育活動の改善を図る。

III 広報の概要

1 目的や意図

学校評価アンケート、生徒による授業評価アンケートの結果・分析及び各学年、部、教科の評価結果から見えてくる本校の課題を教職員全体で共有し、協働で改善していくことを目的とする。また保護者へも周知し、本校教育活動への理解と協力を得る。ホームページに掲載することで、地域の本校への理解を深める。

2 実施計画、及び実施状況

実施計画及び実施状況は以下のとおり

時期	広報の方法	内 容
4月	P T A総会	学校経営・運営ビジョンを保護者に配布、説明 学校評価計画の説明
	本校ホームページ	学校経営・運営ビジョンを掲載
5月	P T A総会の報告会	学校経営・運営ビジョンを保護者に配布、説明 学校評価計画の説明
2月	本校ホームページ	学校評価アンケート結果と分析をホームページへ掲載
3月	本校ホームページ	自己評価実践報告書および評価書を掲載（予定）

3 実施してみたの反省点等

アンケート調査は、クラッシー (Classi) やGoogle Forms等を活用したオンラインによる回答を基本とし、未回答の場合は紙媒体での回答も受け付けた。特に、保護者に対しては、学校の教育活動を理解したうえでアンケートに答えてもらえるよう、アンケート実施前に教育活動の実施状況を報告することはできないか検討したい。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

家庭学習の習慣を定着させることが第一の課題である。この課題は本校の最も大きな課題となっているが、改善するまでには至っていない。

「学校ルーブリック評価に基づく生徒の自己評価」において、全学年1年時の「項目7」の評価が低い傾向にある。事前に用意してある答えに向かって学ぶこれまでの教育から、深く考え模索する教育へと大きく転換することが必要と考える。

2 次年度の取組みについて

各学年・部・教科の努力目標は学校経営・運営ビジョンと関連させた。部では、学校経営・運営ビジョンとの関わりを明確にして評価することができるように、様式を変更した。各部の役割が明確となり、課題を見出し、改善策を立てやすくなった。次年度もこの様式を用いる。

3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

本校は、目指す生徒像を「他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒」とし、目指す生徒の将来像を「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」として、総合的な探究の時間における地域課題探究活動を学びの柱に教育活動を実践してきた。「学校ルーブリック評価に基づく生徒の自己評価」において、第3学年ではすべての項目で前年度の状況を上回っており、生徒は3年間を通して力が身につけていると実感していることから、大きな成果であり、探究活動の重要度は増している。また、地域にも本校の探究活動は理解され、支援が広がりつつある。本校生に対する期待は高い。教育活動を深化させる。

4 終わりに

令和5年度に、各コース（進学探究、教養探究、情報会計、健康福祉）の教育課程が2年生からスタートし、コースの特色に応じて、教育活動や各種検定試験の資格取得に向けた取組を積極的に行っている。

しかし、令和7年度入学生から学年3クラス編成へ学級減となるため、4コースの教育課程について再編の必要性が生じる。学校規模は縮小する流れにあるが、広い視野を持つ生徒を育成することができるよう、教育活動を発展させる。

本校は、今後も、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育成し、地域の期待に応え、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。

添付資料

【添付資料1】学校経営・運営ビジョン

【添付資料2】学校ルーブリック

【添付資料3】学校評価アンケート結果及び評価

【添付資料4】授業評価アンケート結果

【添付資料5】学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価アンケート結果

【添付資料6】各学年・部・教科自己評価（年度末評価）



令和6年度 学校経営・運営ビジョン

福島県立会津西陵高等学校

校訓

『友と学び ともに鍛えん』

教育目標

◎目指す生徒像

他者と協働しながら学ぶことを楽しむ、心身共に健康な生徒

◎目指す生徒の将来像

郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物

本校の特色ある四つのコース（進学探究、教養探究、情報会計、健康福祉）の一層の充実に努め、キャリア指導推進校として生徒の多様な進路希望を実現させるため授業の充実に図ります。また、総合的な探究の時間における地域をフィールドとした探究活動の取り組みをさらに深化させ、これらを、本校での学びの二つの柱として、生徒一人ひとりに対応したきめ細やかな指導を実践し、「地域の将来を担う、地域の核として社会に貢献できる人材」を育成してまいります。

校長 伊東光司

知識・技能

○地域的・社会的な課題に対する知識・理解

- 基礎学力の定着のため、学ぶ意欲を高める授業・個別最適化の授業を展開し、対話的・主体的で深い学びを実践する。
- 地域探究学習を通じ、地域に対する興味・関心を引き出し、社会的課題に対する知識・理解を深める学びを実践する。

○情報・ICT活用の基本的な知識・技能

- 総合的な探究の時間を柱とした教科等横断的な学びの中で情報を収集し活用する力を育成する。
- ICTを活用した効果的な情報収集、情報発信の力を育成する。

思考・判断・表現

○現状を正しく捉えて課題を設定する力

- 学習を通じ、自ら課題を見出す力を育成する。
- 総合的な探究の時間や各教科での学びで得た情報を整理・分析する力を育成する。
- 自ら設定した課題について、収集・整理・分析した情報を用いて論理的に思考する力を育成する。

○表現・発信する力

- 様々な学びを通して、自分の意見を持ち、積極かつ効果的に他者に伝えようとする力を育成する。

主体的な地域社会の有為な形成者

学びに向かう力 ・人間性

○集団の一員として自他や社会のよりよいあり方を目指し取り組む力

- 当事者意識を持ち、自ら進んで課題解決に向かう力を育成する。
- 他者と価値観を共有し、協働して課題解決に向かう力を育成する。
- 基本的な生活習慣を整え、自らの健康を維持向上する力を育成する。

○答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力

- 困難な課題にも諦めずに粘り強く立ち向かう力を育成する。

○学びを振り返る力

- 自らの学びを客観的に振り返り、次の段階へと着実に歩みを進められる力を育成する

教育環境の充実

○キャリア指導推進校として

- 多様な進路希望を実現させるために4つのコース（進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉）を設定し、社会的・職業的自立に必要となる能力や態度を育成する。
- 朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。
- 学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。

○個別支援教育推進校として

- 教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。

○総合的な探究の時間を学びの柱として

- 地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。

○信頼される学校として

- 適切な学校評価を行い、PDCA 組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。
- 地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。

令和6年度 会津西陵高校 学校ルーブリック

企画開発部

資質・能力の三つの柱	項目	育てたい資質・能力	項目(具体化したもの)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
				重要性・必要性の理解	取り組もうとする姿勢	学校で指導した内容の定着	学習の自走化・自律化	「育てたい資質・能力」が身についた状態
知識・技能	1	地域的・社会的な課題に対する知識・理解	基礎的・基本的な知識・技能(基礎学力・社会常識)／地域に対する知識・理解／社会的課題に対する知識・理解	地域的・社会的な知識を身につける必要性を自覚している	地域的・社会的な知識を身につけようとしている	学校で学習したレベルの地域的・社会的な知識が身についている	地域的・社会的な課題に関する知識が身につき、学校で学習した内容を超えて広がりや深まりを持っている	身についた地域的・社会的な知識を、地域的・社会的な課題に取り組むために有効に活用できる
	2	ICT活用の基本的な知識・技能	ICT活用能力	ICT活用の必要性を自覚している	ICT活用の基本的な知識・技能を身につけようとしている	学校生活に必要なICT活用能力(基本的な知識・技能)が身についている	身につけたICT活用能力を用いて活動することができ、必要に応じてその能力を高めることができる	身につけたICT活用能力を有効に用いて活動し、必要に応じてその能力を高め、目的や効果を考えて取捨選択したり、組み合わせたりできる
思考・判断・表現	3	現状を正しく捉えて課題を設定する力	情報の整理・分析／課題設定能力／論理的思考力／当事者意識	現状把握や課題設定の重要性を理解している	地域の現状を把握し、適切に課題を設定しようとしている	学校での学習に基づき、地域の現状を把握して課題を設定できる	情報を吟味して正しく現状を捉え、それを踏まえて適切な課題を設定できる	情報を吟味して正しく状況を捉え、見通しを持って、自らの在り方・生き方を踏まえた課題を設定できる
	4	表現・発信する力	まとめる力／表現力／発想力／想像力／共感性	適切に表現・発信する能力の必要性を理解している	適切に表現・発信する能力を身につけようとしている	学校での学習に基づいて表現を工夫し、発信できる	目的に対しての効果を意識して表現を工夫し、発信できる	相手・場・目的を踏まえ、適切かつ効果的な表現を用いて発信できる
学びに向かう力・人間性	5	学びを振り返る力	メタ認知能力	学びを振り返り、見通しを持つことの必要性を理解している	学びを振り返り、自己の学習に適切な見通しを持つようとしている	学びを振り返り、自己の学習に対しての見通しを持つことができる	学びを振り返って自己の学習を見直し、見通しを持って今後の学習を工夫している	自己を客観的に振り返り、適切に見通しを立てて後の学びを改善するという学習サイクルが確立している
	6	集団の一員として、自他や社会のよりよい在り方を目指し取り組む力	主体性／責任感／協働性／積極性	集団の一員としての自覚を持っている	集団の一員として、自他や社会のよりよい在り方を目指している	集団の一員として周囲と協力し、自他や社会のよりよい在り方を目指し行動できる	自分の役割を意識しながら、集団の一員として自他や社会のよりよい在り方を目指し、自分がすべきことを考え、行動できる	自他や社会のよりよい在り方を目指して主体的に行動し、他者や集団により影響を与えることができる
	7	答えのない課題にも、諦めず、粘り強く取り組む力	粘り強さ／自律性	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組む必要性を理解している	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組もうとしている	答えのない課題にも諦めず、粘り強く取り組むことができる	答えのない課題に対して多角的な視点で情報を収集しながら、粘り強く取り組むことができる	多角的な視点で情報を収集しながら、答えのない課題に対して粘り強く自律的に取り組み続けることができる

- 1 実施時期 10月
- 2 調査対象 生徒、保護者、教職員
- 3 質問項目

質問項目を設定するにあたっては本校の学校経営運営ビジョンを念頭に検討した。

質問項目1は、本校の教育目標の目指す生徒の将来像についての質問である。質問項目3、5、6、7、8は、学校経営・運営ビジョンで示された目標を反映させたものである。

なお、結果及び評価については本校のホームページにおいて公開する。

質問項目		関連
1	本校は、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育てる学校である。	教育目標について
2	本校は、安心して学校生活を送ることのできる学校である。	学校安全について
3	本校は、基礎学力を身につけさせる十分な教育を行っている。	基礎学力について
4	本校は、適切な課題を与えるなど、家庭学習の習慣が身につくように指導している。	学びに向かう姿勢・態度を育む教育
5	本校は、地域や社会の仕組みを理解し、課題解決に必要な知識を身につける教育を実践している。	地域理解・課題解決力を育む教育
6	本校は、授業でICTの活用やその使い方の教育について積極的に取り組んでいる。	ICT活用能力を育む教育
7	本校は、情報を収集・分析し、自分の意見をまとめ他者に伝える力を育てている。	意見をまとめ・発信する力を育む教育
8	本校は、社会の課題に対し、他者と協力し、粘り強く取り組む姿勢を育てている。	課題に向かう姿勢・態度を育む教育
9	本校は、基本的な生活習慣（時間を守る、あいさつ、服装）を確立させる指導を行っている。	基本的な生活習慣の指導
10	本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている。	教育相談の充実
11	本校は、学校での必要な情報をよく知らせて、家庭と密接な連絡を取っている。	家庭と学校との連携
12	本校は、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行っている。	進路指導の充実
13	本校には、必要な図書、資料が用意され、閲覧できる環境が整っている。	図書館の充実
14	本校は、環境美化に努め、校内の清掃が行き届いている。	環境美化
15	本校は、学校行事が充実している。	学校行事の充実
16	本校は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	部活動、生徒会活動の充実
17	本校は、ボランティア活動を積極的に推奨している。	ボランティア活動の奨励
18	本校は、探究学習や行事等をとおして地域との連携を十分に図っている。	地域との連携の充実
19	本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	PTA活動の充実
20	本校は、学校をよく理解してもらうために、適切な広報活動（HPの活用など）を行っている。	広報活動の充実
21	(自由記述)	
【評価】 1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない		

4 質問項目と校務分掌との関連

校務分掌に関して全ての部署に関わる質問を設定し、校務運営改善につながるようにした。

●：直接的な関連あり ○：間接的な関連あり

質問 校務分掌	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
HR	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●		○	○	○	○	○	○	
教科	●		●	●	○	●	●	○	○	○		○	○							
教務部	●		●	●	○	●	●	○				○			●					●
保健厚生部	●	●								●				●				○		
生徒指導部	●	●							●	●	○	○			●	●	●			
進路指導部	●		○	○			○		●		○	●			●					
図書部	●		○	○	○								●							
企画開発部	●		○	○	●	●	●	●					○		○				●	
総務部	●	○																	●	○
委員会	●								●				●	●	●	●	●			○

5 調査概況

(1)調査方法 オンライン (Classi) 上での回答または調査票による回答

(2)回答率

	対象者数	回答者数	R6 回答率%	R5 回答率%	R4 回答率%
生徒	274	274	100	100	98.4
保護者	274	232	84.7	83.8	80.7
教職員	37	37	100	100	100

6 結果と評価

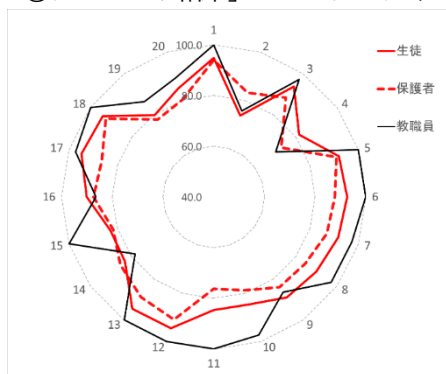
(1) 評価1と2を合わせた肯定的評価の「①アンケート結果」、「②乖離状況」、「③前年度比較」の結果

質問項目	①アンケート結果 (肯定的評価1+2) ※単位%			②乖離状況 ※単位ポイント		③前年度比較 (R6-R5) ※単位ポイント			
	生徒	保護者	教職員	生徒(生徒-教職員)	保護者(保護者-教職員)	生徒	保護者	教職員	
1	本校は、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育てる学校である。	94.9	94.0	100.0	-5.1	-6.0	2.6	0.3	0.0
2	本校は、安心して学校生活を送ることのできる学校である。	73.7	83.2	75.7	-2.0	7.5	-14.0	-7.1	-16.6
3	本校は、基礎学力を身につけさせる十分な教育を行っている。	93.8	88.4	97.3	-3.5	-8.9	-1.3	-4.0	7.6
4	本校は、適切な課題を与えるなど、家庭学習の習慣が身につくように指導している。	81.7	73.0	70.3	11.4	2.7	-4.6	0.5	-6.6
5	本校は、地域や社会の仕組みを理解し、課題解決に必要な知識を身につける教育を実践している。	92.0	90.9	100.0	-8.0	-9.1	-4.2	-0.7	2.6
6	本校は、授業でICTの活用やその使い方の教育について積極的に取り組んでいる。	92.7	87.8	100.0	-7.3	-12.2	-0.2	-0.8	5.1
7	本校は、情報を収集・分析し、自分の意見をまとめて他者に伝える力を育てている。	91.6	87.0	97.3	-5.7	-10.3	-2.8	-1.2	-0.1
8	本校は、社会の課題に対し、他者と協力し、粘り強く取り組む姿勢を育てている。	90.1	84.7	97.3	-7.2	-12.6	-2.5	-3.9	2.4
9	本校は、基本的な生活習慣(時間を守る、あいさつ、服装)を確立させる指導を行っている。	89.1	84.0	86.5	2.6	-2.5	-2.8	-5.1	-3.3
10	本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている。	84.7	78.8	97.3	-12.6	-18.5	-6.5	-1.9	-2.7
11	本校は、学校での必要な情報をよく知らせて、家庭と密接な連絡を取っている。	84.7	76.2	100.0	-15.3	-23.8	-3.4	-6.9	0.0
12	本校は、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行っている。	94.5	90.9	100.0	-5.5	-9.1	-2.7	0.6	2.6
13	本校には、必要な図書、資料が用意され、閲覧できる環境が整っている。	94.5	88.9	100.0	-5.5	-11.1	-2.3	-2.1	2.6
14	本校は、環境美化に努め、校内の清掃が行き届いている。	83.2	85.6	78.4	4.8	7.2	-3.1	-5.5	-11.4
15	本校は、学校行事が充実している。	82.8	81.7	100.0	-17.2	-18.3	-4.1	-10.7	5.1
16	本校は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	90.1	87.4	86.5	3.7	0.9	-3.2	-1.6	-8.4
17	本校は、ボランティア活動を積極的に推奨している。	94.9	86.4	97.3	-2.4	-10.9	2.3	-0.5	12.7
18	本校は、探究学習や行事等をおとして地域との連携を十分に回っている。	94.2	92.6	100.0	-5.8	-7.4	-2.3	-3.2	0.0
19	本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	79.8	77.7	86.5	-6.7	-8.8	-8.6	-7.0	4.4
20	本校は、学校をよく理解してもらうために、適切な広報活動(HPの活用など)を行っている。	85.0	80.3	89.2	-4.2	-8.9	-8.3	-7.0	-8.2

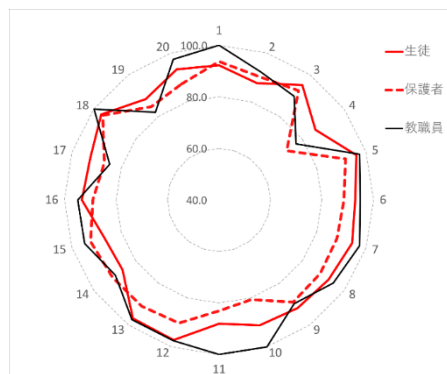
令和5年度 学校評価アンケート結果、乖離状況、前年度比較									
質問項目	①アンケート結果 ※単位%			②乖離状況 ※単位ポイント		③前年度比較 (R5-R4) ※単位ポイント			
	生徒	保護者	教職員	生徒(生徒-教職員)	保護者(保護者-教職員)	生徒	保護者	教職員	
1	本校は、「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」を育てる学校である。	92.3	93.7	100.0	-7.8	-6.3	0.6	-0.6	2.5
2	本校は、安心して学校生活を送ることのできる学校である。	87.7	90.3	92.3	-4.6	-2.0	-3.7	-4.0	-5.2
3	本校は、基礎学力を身につけさせる十分な教育を行っている。	95.1	92.4	89.7	5.3	2.7	0.1	-2.7	-7.8
4	本校は、適切な課題を与えるなど、家庭学習の習慣が身につくように指導している。	86.3	72.5	76.9	9.4	-4.5	-3.7	-7.2	-13.1
5	本校は、地域や社会の仕組みを理解し、課題解決に必要な知識を身につける教育を実践している。	96.1	91.6	97.4	-1.3	-5.8	2.1	0.5	-0.1
6	本校は、授業でICTの活用やその使い方の教育について積極的に取り組んでいる。	92.9	88.6	94.9	-2.0	-6.3	-2.1	0.3	-5.1
7	本校は、情報を収集・分析し、自分の意見をまとめて他者に伝える力を育てている。	94.4	88.2	97.4	-3.1	-9.2	0.4	0.0	2.4
8	本校は、社会の課題に対し、他者と協力し、粘り強く取り組む姿勢を育てている。	92.6	88.6	94.9	-2.3	-6.3	-1.7	-1.7	2.4
9	本校は、基本的な生活習慣(時間を守る、あいさつ、服装)を確立させる指導を行っている。	91.9	89.1	89.7	2.2	-0.7	-0.1	-4.0	-7.8
10	本校は、生徒の悩みや不安に親身になって相談に乗っている。	91.2	80.7	100.0	-8.8	-19.3	0.5	-2.9	2.5
11	本校は、学校での必要な情報をよく知らせて、家庭と密接な連絡を取っている。	88.0	83.1	100.0	-12.0	-16.9	-3.0	1.8	5.0
12	本校は、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行っている。	97.2	90.3	97.4	-0.3	-7.2	1.2	0.0	2.4
13	本校には、必要な図書、資料が用意され、閲覧できる環境が整っている。	96.8	91.0	97.4	-0.6	-6.4	1.2	-0.8	-2.6
14	本校は、環境美化に努め、校内の清掃が行き届いている。	86.3	91.1	89.7	-3.5	1.4	0.6	0.1	2.2
15	本校は、学校行事が充実している。	87.0	92.4	94.9	-7.9	-2.4	5.0	7.4	4.9
16	本校は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	93.3	89.0	94.9	-1.6	-5.9	1.3	1.6	4.9
17	本校は、ボランティア活動を積極的に推奨している。	92.6	86.9	84.6	8.0	2.3	1.6	4.9	-2.9
18	本校は、探究学習や行事等をおとして地域との連携を十分に回っている。	96.5	95.8	100.0	-3.5	-4.2	1.2	2.7	2.5
19	本校は、PTA活動に積極的に取り組んでいる。	88.4	84.7	82.1	6.3	2.6	-0.6	-1.0	-3.0
20	本校は、学校をよく理解してもらうために、適切な広報活動(HPの活用など)を行っている。	93.3	87.3	97.4	-4.1	-10.1	2.6	-1.0	2.4

上記表中の「①アンケート結果」をレーダーチャートで示す。

令和6年度



令和5年度



(2) 評価

①表中の「①アンケート結果」において、肯定的評価が80%未満の項目について

質問項目2、4、10、11、14、19が該当する。

質問項目2については、1学期に発生した金銭盗難が大きく影響していると考えられる。生徒の自由記述にも記載されていた。貴重品の管理と施錠を徹底する。

質問項目4については、教職員の自由記述欄にそれを指摘する内容が記載されていた。家庭での生活状況を把握し改善する方策を検討する。

質問項目10と11については、保護者の自由記述欄にこまめな連絡があり感謝する内容がある一方、どうい生活をしているのか分からない、細かい連絡がほしい等が記載されていたことから、生徒によって連絡をする回数や内容に偏りがあると考えられる。偏りがないようにするためにどのような対応が可能か検討する。

質問項目14については、特に汚れやすい箇所や汚れが目立つ箇所等を日常的に点検する。

質問項目19については、保護者が学校へ足を運び教育活動を参観する機会が少ないことが考えられる。参観案内等の働きかけを行う。

②表中の「②乖離状況」において、10ポイント以上上下回った項目について

保護者とは20項目中8項目で10ポイント以上の差が生じた。アンケートに答えるために必要とされる情報が大幅に不足していると考えられる。学校が提供する情報に関心をもってもらうため、働きかけを続けていく。

生徒とは3項目で10ポイント以上の差が生じた。特に質問項目10と11については、生徒の自由記述欄に生徒と毎日コミュニケーションをとることを望む記載があることから、生徒によって偏りがないよう平等な対応に努める。また、質問項目15については、生徒と保護者へ年間計画、学期計画、月予定等を学年通信やSNS(学校ホームページ、Classi)を利用して丁寧に周知を図る。

③表中の「③前年度比較」において、10ポイント以上上下回った項目について

質問項目2は生徒と教職員、質問項目14は教職員、質問項目15は保護者が該当する。

上記①と②で記載したことについて取り組む。

④回答率について

当初設けた回答期日における回答率は68.2%と低く、そのため回答依頼を複数回行わざるをえなかった。昨年度を上回る回答率となったものの、保護者の肯定的評価は昨年度を大幅に下回る結果となった。

保護者回答率を向上させるために、保護者からの肯定的評価を高めるために、学校が行わなければならないことは、生徒と保護者、地域から信頼される教育活動を行うことではないかと考えられる。寄せられる声に耳を傾け、誠実な対応に努める。

7 その他

各コース(進学探究、教養探究、情報会計、健康福祉)の教育課程がスタートし二年目となる。コースの特色に応じて、教育活動や各種検定試験の資格取得に向けた取組を積極的に行っている。また、生徒たちは主体的に地域のボランティア活動へも参加しており、地域の方々の本校生に対する期待は高い。

本校は、今後も「地域の将来を担う、地域の核として社会に貢献できる人材」を育成し、地域の期待に応え、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。

8 自由記述内容

【生徒】

授業の際、先生だけが話すだけの授業の時間が少々あるので、少しでも生徒に答えを言わせてみたり、周りと話す時間などを設ける時を増やしてほしい。
classiへのアクセス改善をしてほしい。せっかく朝学習をしているのに勿体ないから
テスト期間の提出物を紙に書いて欲しいです具体的に紙に書いてくれれば、テスト勉強しやすいです。
パソコンなどを使う授業を少し増やすと良いと考える→紙に書くという動作がなくなる
もっと生徒が楽しめるような学習活動を活発化した方が良いと思います。
郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物を掲げているなら総合探究を住んでいる地域に分けてもいいのでは？
探究活動をもっと深めよう！！
授業を分かりやすく進めやすくするためにもっとインターネットを使ってほしい
校外学習でいろんな人に関わったりいろんなものを見たりする
授業中席を立つ生徒や話をしている生徒が何人かいるため、授業に集中できない人も何人かいると思う。うるさくする生徒がもう少し減ると授業がもっとはかどるのではないかと思った
生徒の平均勉強時間を増やすべきだと考えた
学校全体の仲を深めるために学校行事をもう少し増やすといいと思う。
中学校の時、合唱コンクールでクラスが一丸となって、終わってからも前は喋ったことがないことも仲良くなったりしたので協調性をはぐむ意味で、今はない合唱コンクールを西陵の学校行事に取り入れるといいと思う。
体育祭を1学期に行うのがいいと思います
他学年との交流を増やしたらいいと思う
様々な才能を生かすためにもっと部活を増やすべき(バスケ、サッカー、吹奏楽など...) 計2件
部活に入部してる人が少ないのもっと積極的に部活に参加したほうがまとまりのある学校になると思った。
これから西陵高校がもっと良くなってほしい
より良い学校にして行けるように頑張ります！！
一方の意見だけに耳を傾けないようにした方がいい。
今のままでいいと思います。充実している。 計3件
生徒と毎日コミュニケーションをとり一人一人の変化に気づくことが改善につながると思う。
生徒の意見が通りやすい学校にしてほしい、生徒が楽しく過ごせるように生徒が意見しやすくして欲しい
先生ごとにいうことが違うことがあるちゃんと情報が共有されていないのかなと思った
あいさつをちゃんとして、明るくする
一人1人舐らないで、一人1人を大切にしてほしい
学校生活が疎かな者には適切な指導、注意が必要だと思います。計2件
ルールを守らない人をちゃんと指導して欲しい
メイクしている生徒が多いためにもっと指導を強化すべきだと思う
身だしなみがよくなればもっといい学校になると思う
頭髪や服装が乱れてきているので、服装指導の際にはしっかり判断して欲しいと思います。
服装指導を徹底して、毎日みんなが正しい服装で過ごすようにするのが良いと思う。
制服のボタンが取れやすいため、取れにくいような素材にする。
真夏の場合汗をかくためYシャツではなくジャージ投稿を許してほしい
学校内でお金の盗難被害が続いていることが一番の不安です。自分のロッカーにしっかり鍵をかけて保管するという心を心がけて行きたいです。
金銭が盗まれるなどの事件に対してもっと対応をしてほしい
金銭の盗難がある、クレームが届いたりなど生徒の過ごし方に最近問題がある。貴重品は自分のロッカーにしまい、鍵をかけるといった生徒への呼びかけが必要だと思う。鍵をロッカーにかける習慣を浸透させるべき。
最近盗難があったり指導されたことに対して反抗的だったり、少し治安がよくない。一部の人ではあるが、全員で問題意識を持てるようにしたい。
最近盗難が多発しているのもっと生徒に呼びかけをしたらいいと思います。
治安が少し悪くなってきてしまっているのも、貴重品の管理方法の生徒への呼びかけもいいのですが、保護者への呼びかけをしたらもう少し効果が期待できるかなと思いました。
体育の時や教室移動の時には誰もいない状況となり金銭が盗まれやすいので教室の施錠・ロッカーの施錠を心がける。
テニスコートをなおしてほしい
トイレの窓を見えなくして欲しい。便座を直してほしい。トイレをきれいにしてほしい。計9件
水道のお湯が出ないことが不便。
掃除があまりきれいにされていない。計2
体育館の中にトイレをつくってほしい。
塗装はした方がいい
本校のPTA活動があまり知られていないような気がします。

【保護者】

<p>「成績カルテ」がベネッセのテスト結果以外活用されていない。結果が正しく理解できれば、声かけ等も工夫ができると思いますので、定期テストの結果も見れるようにしていただきたい。 また定期テストの日程は学年便り以外でも通知してもらえると助かります。今回遠足の連絡に気を取られて見逃してしまったので。</p>
<p>科目によっては理解が難しい物もあり、授業だけではついていけないものもあるようです。そういった場合、保護者としては塾に頼らざるを得なくなります。学ぶ側の姿勢もありますが、教える側の方々。人に伝える方法など、現代の子に合わせた研修などあれば、塾に行かず学校の授業の範囲内で理解が深まるのではないかと考えました。 是非、今後は進学校にも食い込んでいくような高校になっていただきたいです。</p>
<p>生徒が自ら考える機会を持たせている。</p>
<p>生徒一人一人が将来に目標を持って学校生活を出来るようにクラス全体の雰囲気改善出来れば個人の能力もあがるのではないかと考えます。意識をすることが責任を持って取り組む事なのではと思います。</p>
<p>いつもお世話になっております。日々こまめなご連絡ありがとうございます。ただ設問内容で？な部分が多々あり無回答箇所が出てしまい申し訳ありません。 担任の先生からは親身に話を聴いていただいている事、感謝致しております。 他の沢山の生徒さん達が自分自身を大切にしながら、将来の選択肢が増える教育、西陵高校で色んな事を学べて良かったと思える体験、先生方の学生時代をおり混ぜての講義も生徒さん達は引き込まれて、楽しみながら集中出来るのでは...と思いました。</p>
<p>色々と取り組んで頂いていると思いますが、恥ずかしながら私が知らないだけの箇所が多々あるかと思えます。</p>
<p>このアンケート自体について、ほぼ学校に行く機会がないのでなんとなくの回答になってしまいました。形だけのムダな時間を費やすのではなく子供の成長を目的にした意義のある事を行ってほしいです。 先日の教習講義では先生方が真面目に生徒と向き合っていて下さっていると感じたところでしたので残念に感じました。 学校でどういった生活をしているか、又その環境等分らない事ばかりなので、上記の設問に対して適当な回答が出来ていないと思います。ご了承ください。</p>
<p>難しい年頃の子供が楽しく登校し、感謝しかありません。寄り添っていただきありがとうございます。</p>
<p>もう少し細かい連絡が欲しいと思っています。</p>
<p>ご指導ありがとうございます</p>
<p>ネクタイやソックスなどの備品は、学校でも在庫管理して販売できるようになってもらえると、ありがたいです。</p>
<p>夏季、女子のハイソックス着用について。 暑いと下ろして履いてみたりしてる場合がよく見られるので、ハイソックスでなくてもいいのでは？と思います。</p>
<p>高校生なので、子供のことで心配なことをあまり話せないかな？と思ってましたが、担任の先生が色々配慮してくださっていて安心しました。いつもありがとうございます。</p>
<p>子供の悩みは聞いてくれるが具体的に動いてはくれない、または動いてくださっても解決しない。</p>
<p>縮毛矯正を許可して欲しいです。おしゃれのためのパーマとは違って、清潔感も増しますし、朝の準備の時短にもなります。ご検討のほどよろしくお祈いします。</p>
<p>体育館が少し狭く感じます。</p>
<p>テニスコートですが、草が生い茂っている中で部活動をしているのが気になったことがありました。毎回部活前に、少しずつでも部員で草むしりする。または学校の美化活動にテニスコートの草むしりを加え（入ってるのであればすみません）生徒大勢でとりかかれば短時間で終了できると思いますし、環境整備の案とさせていただきます。整備されたコートでの部活はモチベーションが上がると思います。</p>
<p>テニスコートや校庭などの除草や整備をもう少ししてください。外から見てひどいです</p>
<p>部活動の大会時、生徒たちが使用できるテントがほしいです。雨天時及び炎天下での活動において、生徒たちの荷物が土の上に直に置いてありました。雨天の場合も直に荷物を置くしかなく着替えもカバンも全ての荷物が濡れてしまっていました。炎天下での活動に於いても直接日差しの当たらないところでの熱中症対策等休憩場所の確保は必要です。外での活動のリスクはありますのでテント準備していただき環境改善をお願いします。他の部活動、陸上部等にテントがあるかわかりませんが無いようであれば学校としてどの部活動でも使用できるようにしていただいても良いと思いますので、生徒達のためにぜひとも検討し購入してください。よろしくお祈い致します</p>
<p>列車の乗り降りなのですが、若松方面から乗って、高田に降りた時に何処に乗車券を置いたら良いのかと言うことを聞かれるんですけど、いつもは定期なんですけれど、たまに乗車券を買うときに、迷ってしまうと言う事です</p>

【教職員】

D3 特別学習会等、朝学等、学校全体で生徒の基礎学力を定着させる取り組みを行っている
学習習慣の確立が課題かと思えます。朝学習をはじめとした課題の取り組み方に問題のある生徒が多くみられます。
学校評価アンケートのみならず、被害調査や進路希望調査等多くのアンケートがある中ではあるが、生徒自身の実態を把握するような調査を行って傾向を分析し、全体で共有して改善に向けた取り組み策を考えていきたい。（家庭学習時間、睡眠時間、ゲーム・スマホ利用時間などの生活習慣などの調査）
基本的な生活習慣を身に付けさせた上で、高校としての様々な取り組みが始まってそれらの効果も上がると思う。それを身につけさせながら、取り組みを行うのには困難がある。全職員で足並みそろえた指導をし、地域社会に有用な人材育成につなげていくことが課題だと思う。
基本的な生活習慣を身につけられるよう、教員と保護者が連携して指導をしていく必要がある。
生徒会で「あいさつ運動」に取り組んでいるが、全生徒に浸透していないように感じるので、積極的に自分から気持ちの良いあいさつができるよう、各クラスでも呼びかけをしたり、教職員も協力したりして、以前のようにあいさつを返してくれる生徒が増えることを切に願っている。
11月から生徒の下校時刻が早まると思いますが、校舎を出た後にバスや電車を待つ場所が無く心配になります。教員側にも負担なく生徒が利用できるスペースが作れないでしょうか。
生徒数が減少しても、地域に根差した高校として、存在し続けなければならないと思っています。
統合して3年がたったこと、また来年度以降のクラス減（教員減）を踏まえて、これまで作ってきたシステムの点検や見直しが必要だと思えます。3クラスの学校に4つのコース設定は無理があるような気がしますので、コース制そのものやカリキュラムの見直しについて年度内に話し合えればと考えます。
ネットワーク環境など、学校単独では致し方ない部分での不具合の改善が望まれます。

令和6年度 生徒授業評価結果

【第1学年】

実施時期：令和6年12月

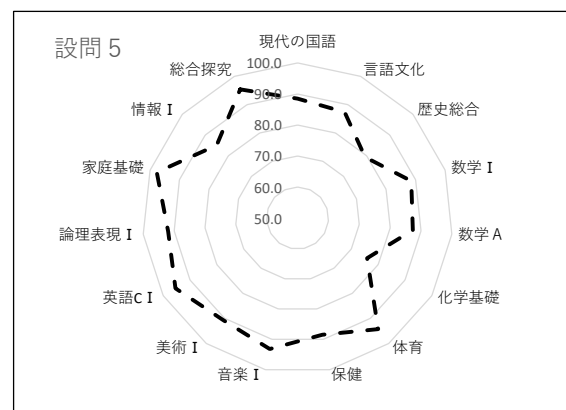
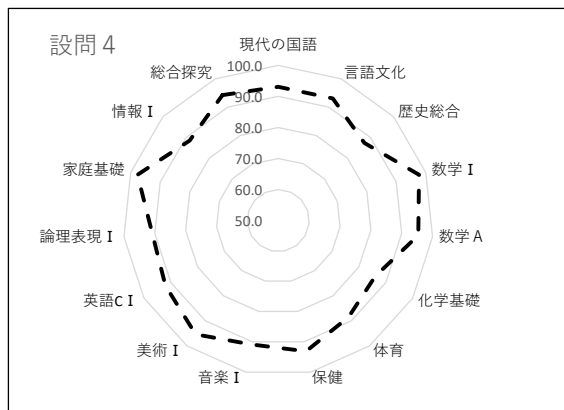
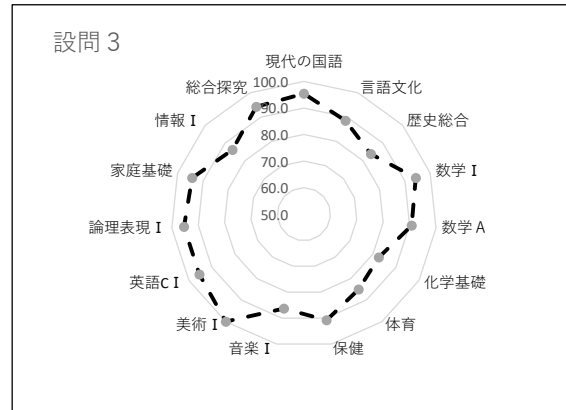
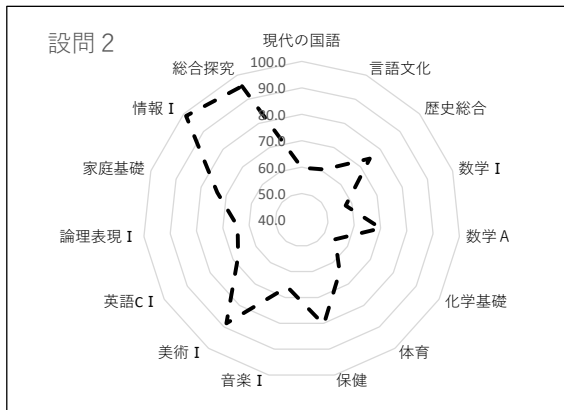
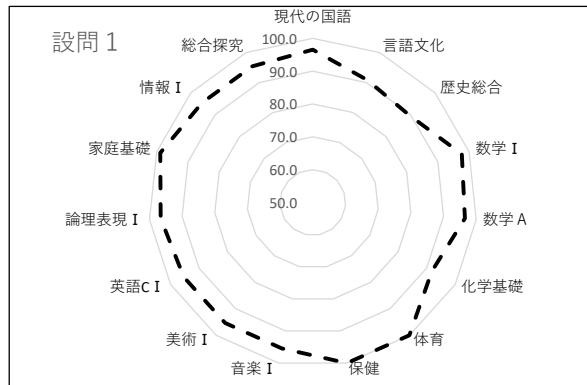
回答率：1年98.9%、2年：100%、3年100%

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

評価基準

- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた評価（肯定的評価）結果について、レーダーチャートで示す。



【評価】

- ・設問2以外については、概ね80%以上の肯定的評価を得た。基礎的・基本的な知識を習得させる、自分で考えてまとめて表現させる、他者と協働して粘り強く考えさせるという学びになるよう、今後も授業改善に取り組む。
- ・設問2では、情報Iや総合探究以外では、歴史総合、数学A、保健、美術Iで評価された。校内教職員研修会でもICT活用力を高める研修を積極的に行っている。生徒がICTの効果を実感できるような授業を展開する。

【第2学年】

実施時期：令和6年12月

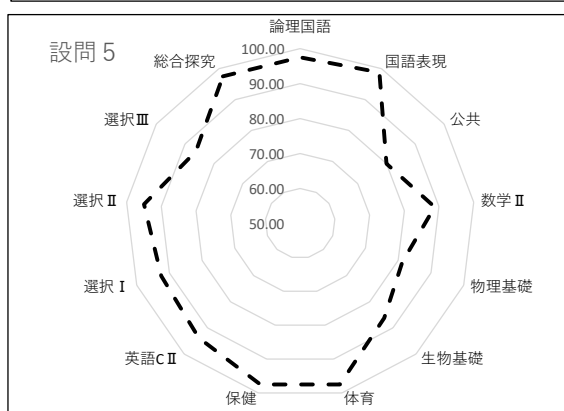
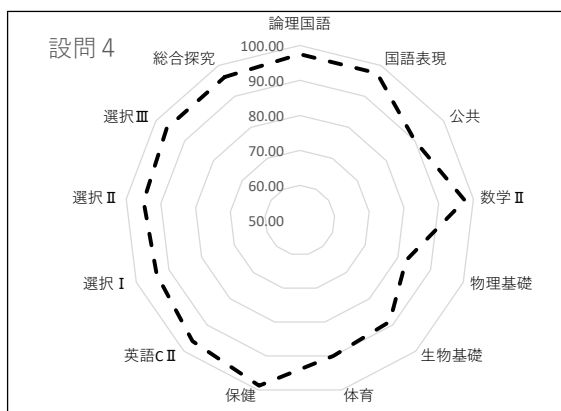
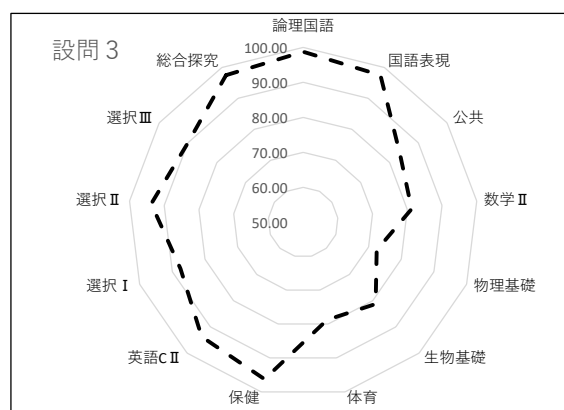
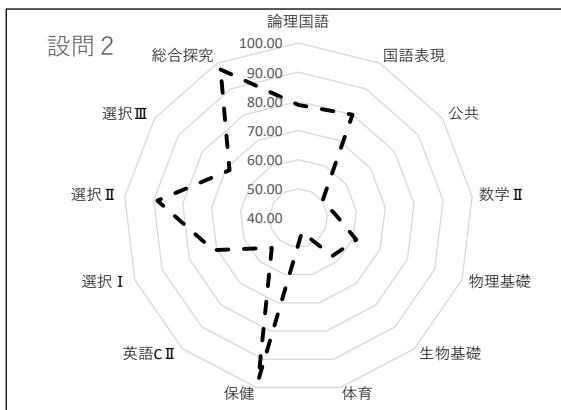
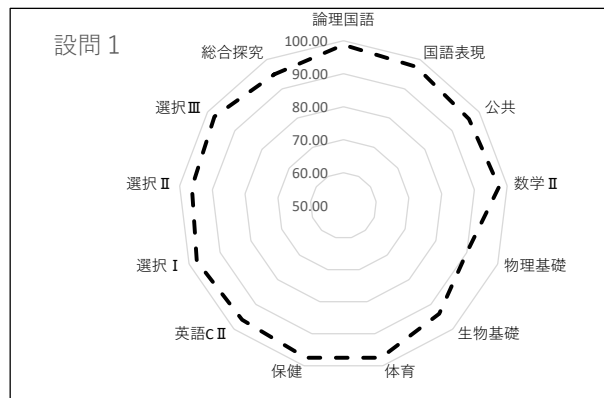
回答率：1年98.9%、2年：100%、3年100%

- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

評価基準

- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた評価（肯定的評価）結果について、レーダーチャートで示す。



【評価】

- ・設問2以外については、概ね80%以上の肯定的評価を得た。自ら課題を見出させる、様々な情報から論理的に思考させる、自分の意見を持たせ他者に積極的に伝えさせるという学びができるよう、常に授業改善に取り組む。
- ・設問2では、保健と総合探究の授業で高い評価を得た。生徒がICTの効果を実感できるような授業展開を実践する。
- ・設問3では、他教科に比べて若干低評価の科目があった。発表の機会を年間指導計画の中に位置付ける等工夫し、発信力の育成を目指す。

【第3学年】

実施時期：令和6年12月

回答率：1年98.9%、2年：100%、3年100%

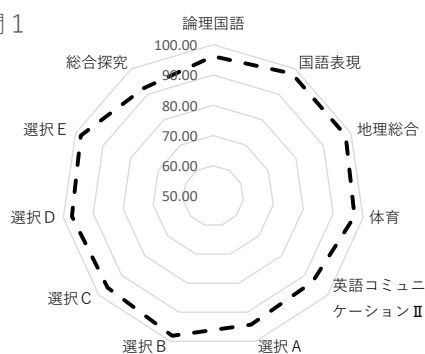
- 設問 1 基礎的・基本的な知識を身につけることができる授業である。
 2 ICTを用いて活動したり、学んだりすることができる授業である。
 3 自分で考えたことをまとめたり、表現したり、発信したりすることができる授業である。
 4 学びを振り返り、自分の学習に見通しを持つことができる授業である。
 5 他の生徒と意見を交わし協働したり、時間をかけて何度も粘り強く考えたりする場面が取り入れられている授業である。

評価基準

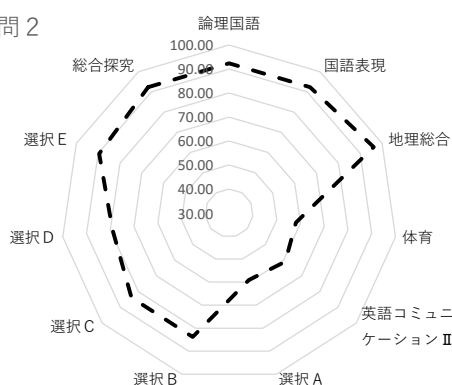
- 1 よく当てはまる
- 2 やや当てはまる
- 3 あまり当てはまらない
- 4 全く当てはまらない

※評価1と2を合わせた評価（肯定的評価）結果について、レーダーチャートで示す。

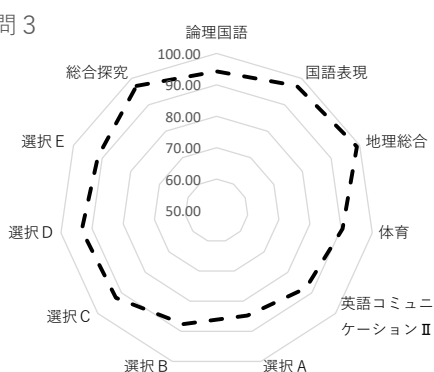
設問 1



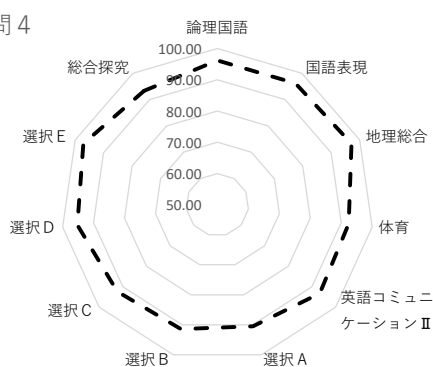
設問 2



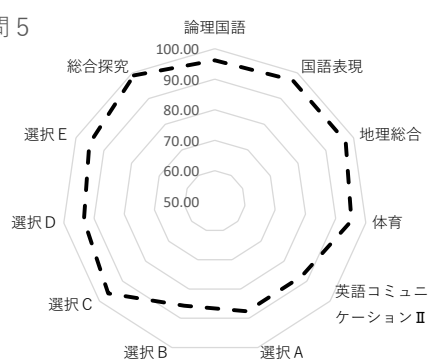
設問 3



設問 4



設問 5



【評価】

- ・設問2以外については概ね肯定的評価が80%以上となった。本校の教育スタイル（方針や方法）が生徒に理解されていると評価することができる。
- ・設問2では、比較的高い評価を得た。生徒がICTの効果を実感しICT活用力が高まったと考えられる。

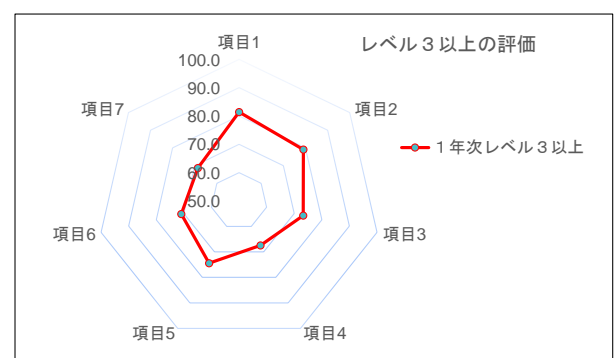
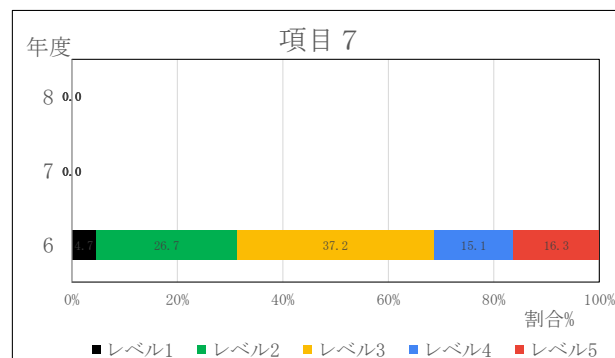
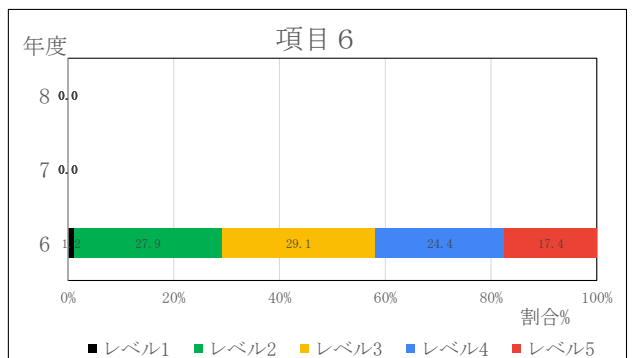
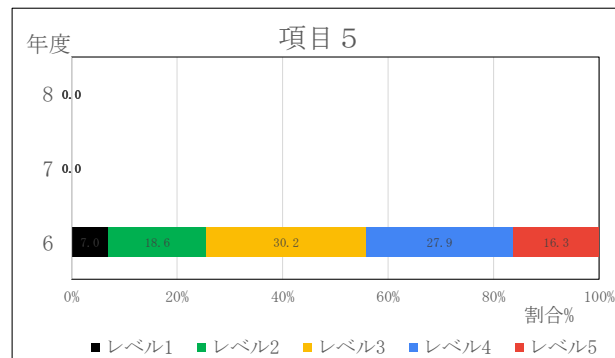
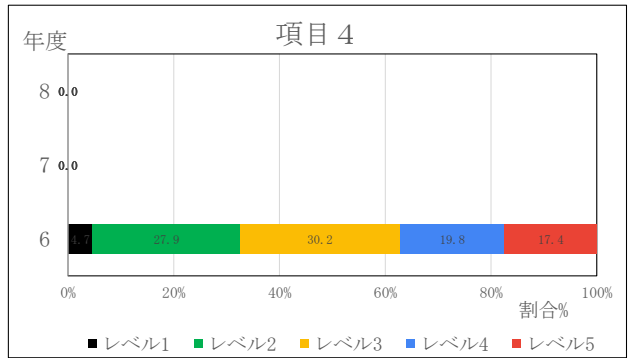
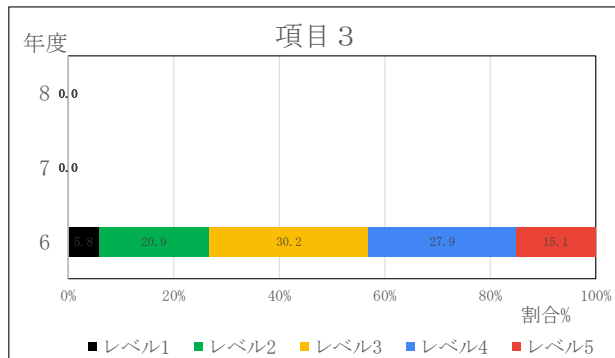
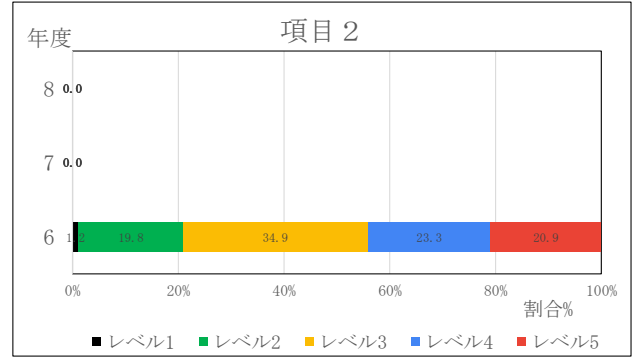
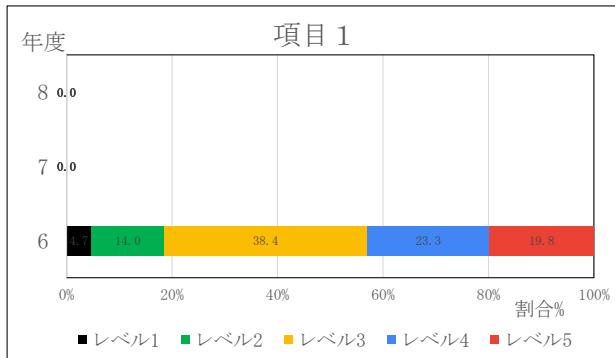
令和6年度 学校ルーブリックに基づく生徒の自己評価 経年比較

第1学年

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
6	令和6年12月18日	88	86	97.7
7			0	#DIV/0!
8			0	#DIV/0!

2 自己評価結果



3 分析・評価

概ねレベル2、レベル3の評価だった。全体的なバランス・平均値とも例年通りであった。

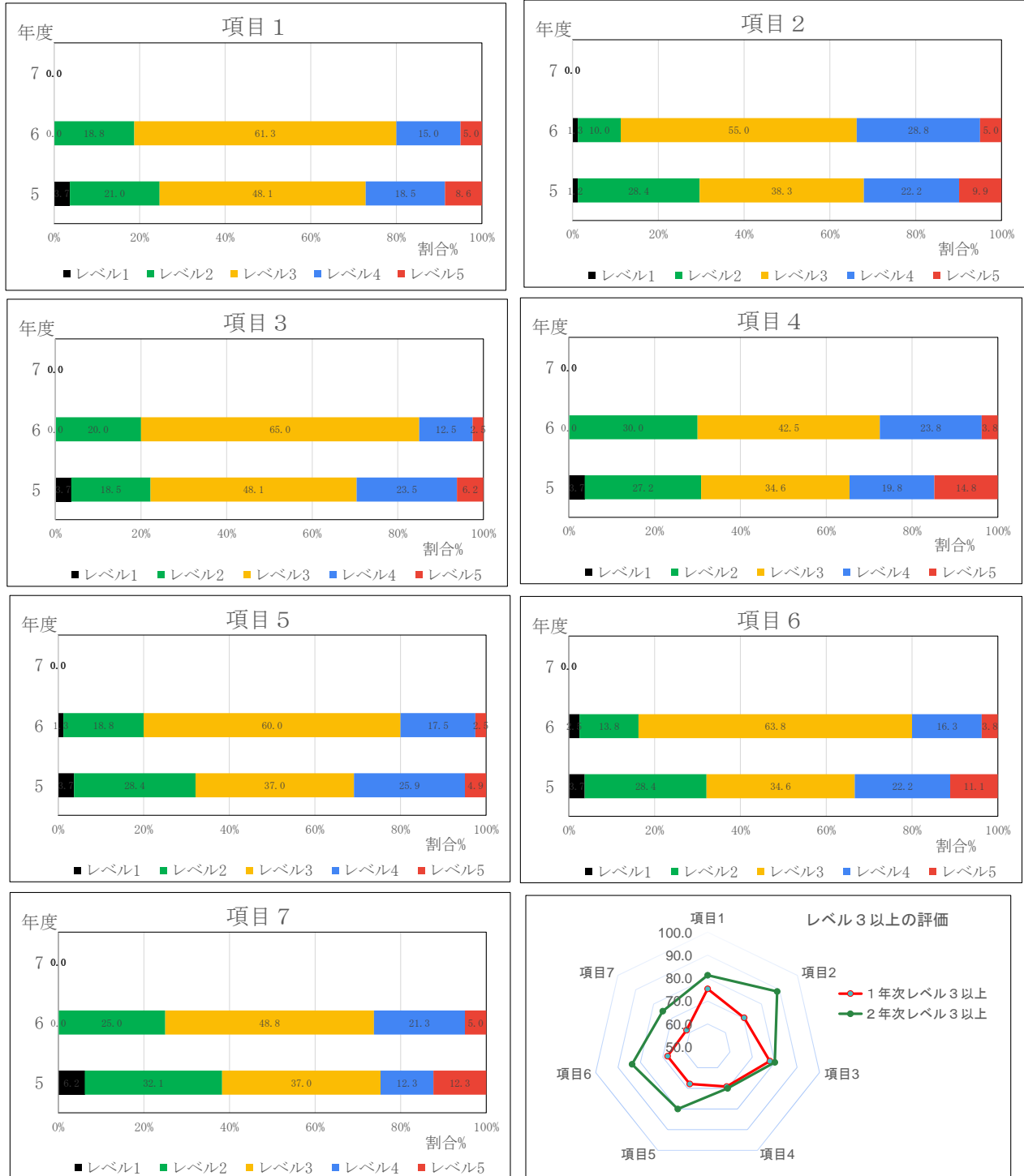
しかし、項目4(表現力)・項目6(協調性)・項目7(粘り強さ)の自己評価が低いので次年度はこれらの項目に関する学習活動を取り入れる必要がある。

また、各項目レベル5の割合が高く、客観的に自分を評価するメタ認知が低い傾向にある。

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
5	令和5年12月19日	82	81	98.8
6	令和6年12月18日	80	80	100.0
7			0	#DIV/0!

2 自己評価結果



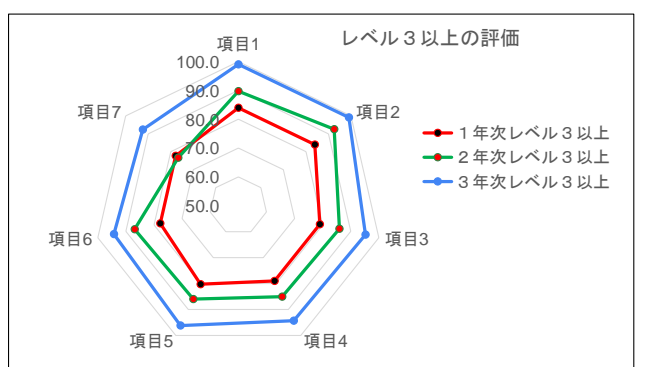
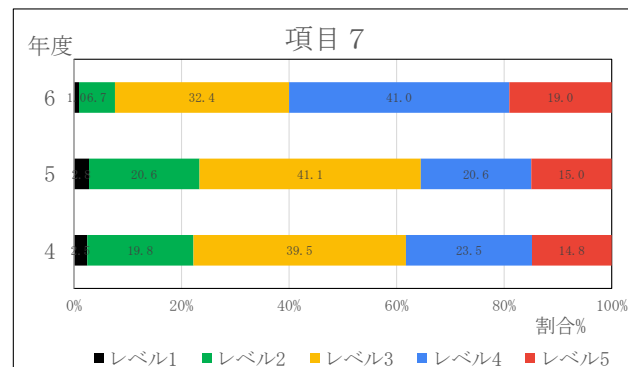
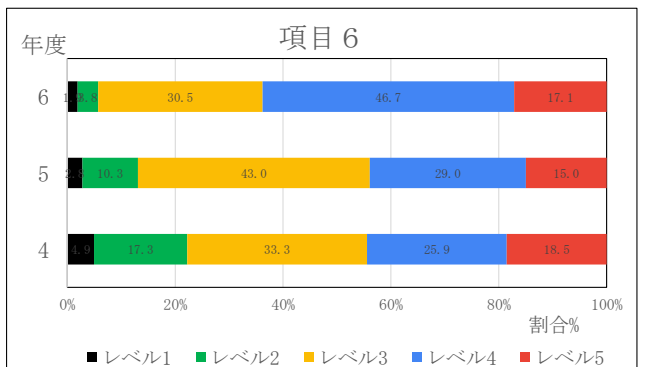
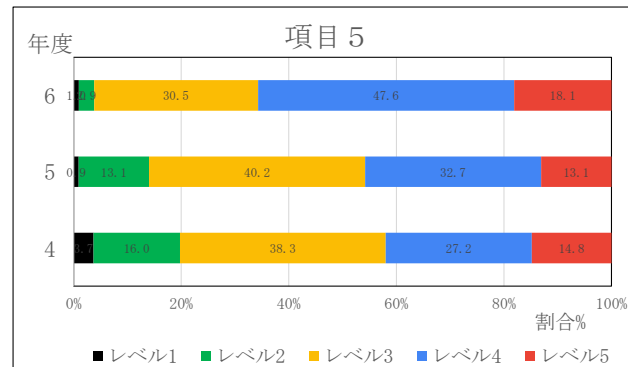
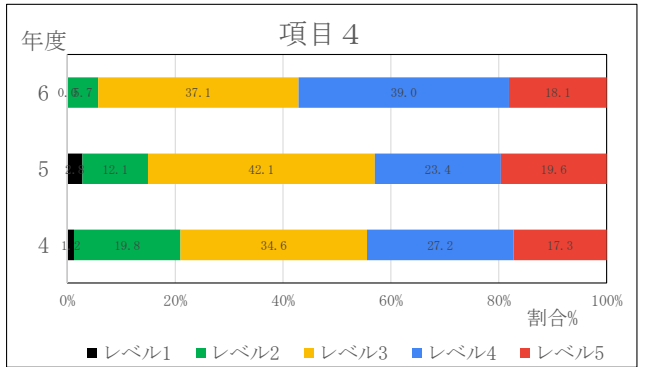
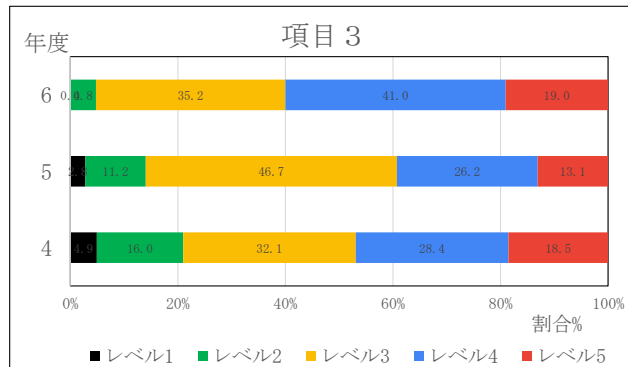
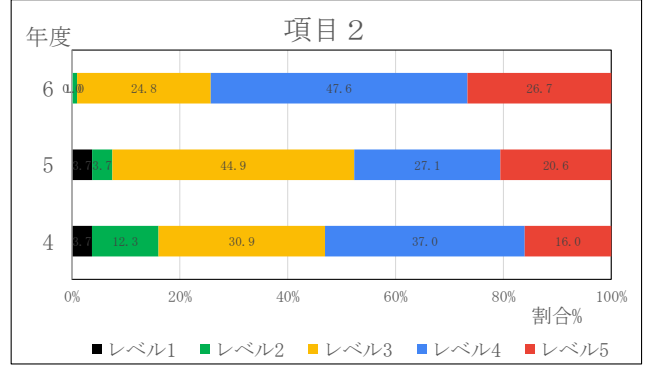
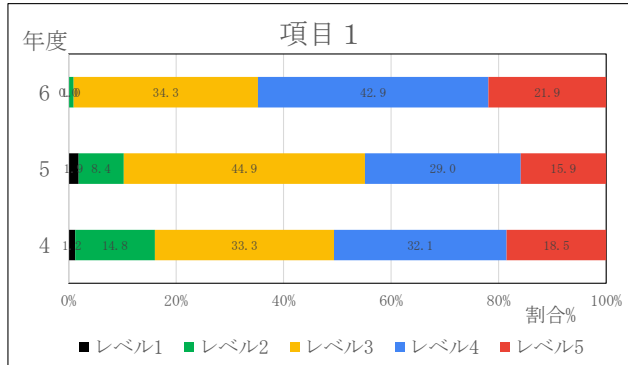
3 分析・評価

全体的に1年時を上回る自己評価となった。しかし項目3と項目4についてはレベル3以上と答えた生徒が昨年度とほぼ同数であった。課題設定力や表現力発信力は伸び悩んでいる傾向である。
 また、すべての項目でレベル3の評価が約1.5倍増となり、レベル5の割合が減少する結果となった。これは自分を客観的にみるメタ認知が向上したことが予想される。

1 実施日、回答状況

年度	実施日	回答状況		
		生徒数	回答数	回答率
4	令和4年12月20日	112	81	72.3
5	令和5年12月19日	108	107	99.1
6	令和6年12月18日	105	96	91.4

2 自己評価結果



3 分析・評価

ほとんどの生徒がレベル3以上の自己評価をし、きれいな七角形のチャートとなった。特にレベル4の割合はすべての項目で3年間で最も高い割合となり、レベル5においても5項目で3年間で一番高い割合となった。生徒たちはすべての項目で3年間を通して力が身につけていると実感しているように読み取れ、本校の学習活動においては一定の効果があったとみる。

令和6年度 1学年

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	・基礎学力を定着させる。 ・地域的・社会的課題についての知識を身につけることの必要性を理解させる。	・基礎力診断テストを利用して個々の生徒の到達度や苦手分野を把握し、基礎学力定着のために必要な具体的手立てを認識させ、家庭学習の習慣を身につけさせる。	B	成績不振の生徒に対しては補習等を行っている。家庭学習の習慣が定着した生徒が少しずつ増えてきた。意欲の高い生徒については、個別の指導などを今後検討していく必要がある。ICTに関しては、生徒に端末を準備させるのに精一杯な状況で、十分に活用できているとは言い難い。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	・情報・ICT活用能力を身につけさせる。	・総合的な探究の時間を中心に、地域的・社会的な課題を自己の興味・関心と関連させて考える機会を多くつくる。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	・自己の置かれている状況や周囲との関係を把握し、適切に課題を設定することの大切さを理解させる。	・LHRや総探の中で、自己の置かれている状況や周囲との関係について考え、話し合い、判断する授業を設定する。	B	生活や人間関係について、学年集会等で話をし、考えさせる機会をつくってきた。物事を真剣に捉えて記述できる生徒は増えてきたが、発信、表現のためのトレーニングはまだ不十分である。	B
	○表現・発信する力	・適切に表現・発信する力を身につけることの必要性を理解させる。	・総探の時間に話し合いや考えの深め方などについての技術を身につけるためのトレーニングを実施する。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	・学びを振り返り、自己の学習に適切な見通しを持つことの必要性を理解させる。	・キャリアパスポートを活用し、行事や学期の節目ごとに自己を振り返る機会を設ける。	B	行事や節目ごとに振り返りをさせているが、それが次の目標設定や計画、行動にまでつながっているとは言いがたい。粘り強さに欠ける生徒が全体的に多く、継続的指導が必要である。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	・集団の一員として、集団のよりよいあり方を考えることの大切さを理解させる。	・個別面談をこまめに実施し、生徒が学びを振り返り、適切な目標を設定させたり、つまづきを理解して支援したりする。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	・現代社会の課題は答えのないものばかりだということを実感させ、そこに向き合う意識を持たせる。	・総探や各教科の授業において、生徒が粘り強く取り組めるような問いを設ける。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		・進路指導部や教務部と連携し、進路探究と適切なコース選択ができる環境を整える。 ・企画開発部と連携し、総探を中心に、社会の中の自分という自覚を持ち、その中でどのような役割を果たそうとするのかを考えさせる。	・視野を広く持ち、進路意識を高揚させるための講話や企画を積極的に実施する。 ・学年通信やClassiによる情報発信、保護者面談等をおして家庭との連絡を密にし、共通理解を持って教育活動を行えるようにする。 ・ボランティア等の校外活動も積極的に行えるよう、生徒への情報提供や動機付けを行う。	B B	進路や総探の講話は数多く実施してきた。現状では話の聞けない生徒もいるが、今後もできるだけ設けて意識の高揚につなげていきたい。Classiによる情報発信は保護者に歓迎されている。面談や電話などで保護者への連絡はこまめに行っている。校外活動にはまだ消極的な生徒が多いが、少しずつ増やしていきたい。	B
課題				改善策		
金銭盗難が頻発し、現在落ち着いてはいるが、今後も注意が必要なこと。 学習習慣が定着していない生徒が多いこと。 進路意識がまだ全体的に低いこと。 基本的な生活習慣が乱れている、規範意識が低い生徒が多いこと。				現在行っていることの一つ一つを徹底していく。 他人の学びを妨げる行為について厳しく対処していく。 日常生活で生徒が「知らない」ことについて知らせる機会をつくる。 授業の質を上げ、家庭学習の習慣をつけさせる。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 2学年

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	・基礎学力を定着させる。 ・地域的・社会的な課題についての知識を身につけるための行動を起こさせる。	・授業に加え年3回の学習診断テストにより個々の生徒の実態を把握し、それぞれに必要な具体的課題に取り組ませる。	B	・昨年度に比べコースごとに取り組む課題が明確になり、学力向上のために努力しなければという意識が出てきた。具体的な行動にまで移せていない生徒もいるが、探究活動や検定試験に意欲的に取り組む生徒も増えてきた。 ・端末利用の機会が増え、活用能力が向上した。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	・情報・ICT活用能力を身につけさせる。	・Classiを利用してポートフォリオを作成、活用させる。朝学習や総探の時間を利用し端末に触れる時間を増やす。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	・自己の置かれている状況や周囲との関係を把握し、適切に課題を設定させる。	・総探の時間や学校行事の中で、自己の置かれている状況や周囲との関係などについて考え、話し合い、判断する機会を設定する。	B	・それぞれの興味関心や進路希望と地域課題を関連させて考えさせる働きかけができたが、具体的な課題を設定し取り組むことができるよう、さらに継続して指導していきたい。	B
	○表現・発信する力	・場や相手に応じて適切に表現・発信する力を身につけさせる。	・総探の時間や学校行事の際に機会を作り、表現・発信させる。また、事後の振り返りに取り組ませる。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	・学びを振り返り、自己の学習に適切な見通しを持たせる。	・年5回以上のキャリアパスポート記入やアンケート等の振り返りを通して自己の課題に気づかせる。	B	・キャリアパスポートの利用を通して、振り返り結果を教員と生徒で共有することができた。個人面談等の機会に振り返りの結果をフィードバックし、丁寧な生徒支援を継続していきたい。 ・自己の考えを適切に表現・発信することができていない生徒もいる。コミュニケーションスキルを身に付けさせる働きかけがさらに必要である。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	・クラスや部、友人の集団だけでなく、中堅学年として学校全体の中で自分がどう行動すべきか考えさせる。	・総探や学校行事の際に、リーダーやフォロワーなどそれぞれの役割を意識させるような声掛けをする。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	・悩みやつまづきにどのように対処していくかを具体的に考えさせる。	・年3回の面談を実施し、生徒各自の課題への取り組みを支援する。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		・進路指導部や教務部と連携し、十分な進路探究と適切なコース選択ができる環境を作る。 ・学年内の連携を密にする。 ・企画開発部と連携し、総探を中心に地域との連携を深める。 ・家庭との連携を密にする。	・進路や学校行事について、年間計画を示し長期的な見通しを立てさせる。 ・日ごろの生徒情報交換を十分に行いチームとして対応に当たる。 ・周知活動を行い、フィールドワークやボランティア参加の機会を増やす。 ・月1回の学年通信発行や保護者面談を通し、教育活動に対する理解を深めてもらう。	B A B B	・進路や企画開発部と連携し、またインターンシップや修学旅行などを通して、進路や地域課題について考えを深めさせることができた。 ・生徒指導部や家庭と連携を密にし、落ち着いた学習環境を作る努力をさらに継続していきたい。	B
課題				改善策		
・計画的かつ具体的な進路指導により、進路実現にむけての課題に実際に取り組ませる。 ・集団をよりよくするために自分はどう行動すべきかを考えさせ、実行させる。				・授業や探究活動、部活動やボランティアなどの活動を通して自己を振り返る機会を持たせる。また、力のある生徒、基礎学力が不足している生徒のそれぞれに適切な課題を設定させるとともに、より丁寧な働きかけをする。 ・集団の中でのルールを守り、他人に配慮するといった基本的なことを学校生活の様々な場面で繰り返し伝えていく。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 3学年

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	・基礎学力の定着と向上、家庭学習を習慣化させる。 ・地域の課題に対して理解を深める。	・朝学のスムーズな取り組み、学年・各教科と連携し週末課題、家庭学習を設定する。 ・総合的な探究の時間において地域の課題と向き合い成果発表会で発表する。	A	朝学について、年度当初は端末忘れ、充電不足等があったが、現在はスムーズに実施できている。成果発表会では、各ゼミ各班においてしっかり発表することができた。ICTの活用について、LHRでの使用は少なかったが、総合的な探究の時間での班別、個人レポートについてclassroomを活用することで生徒の利用場面が増えた。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	・ICT活用の場を増やし、活用能力を育成する。	・授業以外にもLHR等においてもICT利用の機会を増やす。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	・進路目標の設定と進路実現に向けた課題を理解させる。	・教科と連携し小論文・作文・面接の指導を進める。・学年、進路指導部と連携し多様な進路指導に対応する。	A	特に国語の授業では小論文、面接はじめ、進路指導に対応していただいた。昨年度三学期からLHRにおいて、進路別で活動して課題理解に努めた。計画的に進めることができたが、主体的に取り組める生徒とそうでない生徒の差があった。	A
	○表現・発信する力	・主体的、計画的に学習活動、進路活動に取り組ませる。	・LHRでの指導を中心に個別に指導を行う。	A		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	・行事ごとの予定、振り返りをさせることで学びに向かう力を養う。	・積極的にclassiキャリアパスポートを活用する。	B	・キャリアパスポートの活用については不十分であった。 ・進路に絡めた指導で、大きな服装頭髪の乱れはなく、最上級生として学校生活を取り組ませることができた。 ・各班において、成果発表まで終了したが、探究活動に対して、主体的に取り組める生徒とそうでない生徒の差があった。レポート作成、提出についても同様で生徒間の差があった。	A
	○集団の一員として他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	・学年・場に応じた行動の習得をさせる。	・生徒指導部と連携し、最上級生として社会人になる前の言動や礼儀等を身につけさせる。	A		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	・総合的な探究の時間の充実をはかる。	・自分のテーマに対して他者と協働して課題解決に向かう力を養う。	A		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		・コース完成年度の3年生としての自覚を持たせ、進路実現につなげる。 ・総合的な探究の時間の総括を行う。 ・個別の支援が必要な生徒を把握し、必要な支援を行う。 ・生徒一人一人の現状を把握し、保護者との連携をはかる。	・上記努力目標の具体的事項について取り組み、学年間の連絡を密にする。 ・成果発表会を実施し、班別レポート、個人レポートをまとめることで3年間の活動を振り返る。 ・学校生活、学習状況を観察し、学校として適切な支援をする。 ・学年通信の発行・配信、個人面談の充実をはかり、生徒理解に努める。	A B B A	進路指導部主導で、2年次3学期から進路活動が始まった効果から、多くの生徒の進路意識の高揚と進路実現につながった。成果発表会後の班別、個別レポートの作成、提出にかなりの労力を要した。次年度以降、班別レポートのみでいいのではないかと個別支援が必要であろうと思われていた生徒たちも最低限の支援で学校生活を送ることができた。定期的な学年通信の配付、配信ができた。	A
課題				改善策		
・会津西陵高校初の入学生として入学し、3年が経過した。手探りの3年間であったが、先生方のご協力と生徒たちの頑張りもあり、今を迎えている。 ・毎年の課題は、学年としての計画性である。ある程度の計画で、詳細まで詰めることができずに進めることが多々あり、それでもやってこれたことについても先生方、生徒に感謝である。				・定期的な学年会、打ち合わせを実施する。その場面に応じての打ち合わせの実施。 ・担任のみならず、副担任も含めた担任団のコミュニケーションを高める。 ・3年次進路指導室常駐となり、コミュニケーションはスムーズに取れた。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 教務部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース(進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉)を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	1.基礎学力の定着 2.適切な観点別評価への支援 3.コース制の適切な運営	1.朝学習を実施し、改善していく。 2.観点別評価の状況を調査し、職員間で情報共有する。 3.完成年度を迎えるコース制の適切な運営に、最善を尽くす。	A C B	・Wi-Fiの接続が制限される中、工夫しながら実施できた。生徒および教員アンケートの結果をふまえて、改善していきたい。 ・観点別評価についてのアンケートを実施したが、効果的な実践例が少なく、効果は低かった。 ・コース制のあり方が教員間では定着しつつある。今後、学級減による見直しを進めていく必要がある。	B
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	1.個別最適化された授業実践への支援	1.特別学習会を実施し、改善していく。 2.個別最適化した授業実践の状況を調査し、職員間で情報共有する。	A C	・特別学習会は正に個別最適化された学習指導である。参加生徒の頑張り先生方のご協力、軌道に乗った。 ・個別最適化した授業についてのアンケートを実施したが、効果的な実践例が少なく、効果は低かった。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	1.協働的な授業実践への支援	1.授業評価アンケートを実施し、活用する。 2.協働的な授業実践の状況を調査し、職員間で情報共有する。	B C	・授業評価アンケートを実施し、授業改善に生かした。HPでも公開予定である。 ・協働的な授業についてのアンケートを実施したが、効果的な実践例が少なく効果は低かった。	B
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	1.信頼される校務運営 2.魅力的な学校づくりの推進	1.効率的でミスのない教務運営に最善を尽くす。 2.中学校体験入学の進め方を改善する。	A A	・校務運営も体験入学も問題ないと考える。 ・ミスを減らし、新しい業務に挑戦するためにも、不要な業務の削減を進めたい。部内で検討を進めているので、他の部署目線で、改善すべき点や削減できる業務があれば、教務部にぜひ教えてほしい。	A
課題			改善策		
1. アンケート結果をふまえて、朝学習の進め方を改善する。 2. 授業改善のための方策として、教員アンケート以外の方法(例えば、外部からの情報入手)を検討する。 3. 学級減にともなうコース制や教育課程のあり方について検討する。 4. 業務削減・業務改善について、他部署目線からの意見入手が必要である。			1. 年度内に改善案を作成し、教員間の共通理解を得た上で、来年度初めから実行する。 2. まずは部内で情報入手に努める(部外からの有意な情報があれば、教えてほしい)。 3. すでに教頭先生中心に検討が進んでおり、そのサポートをする。 4. 他部署からの意見に期待しています。遠慮なくお願いします。		

※記入箇所
 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 保健厚生部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース（進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉）を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	・生徒の健康管理に努める。	・健康診断の適切な実施とその事後処理、指導に努める。 ・心身の健康保持増進に関心を持たせ、主体的に健康的な生活習慣の確立に努めさせる。	B	・健康診断の結果、精密検査が必要な生徒には、長期休業前、2年生には修学旅行前、3年生には自宅学習期間前に受診勧告書を配布し受診を勧めることができた。 ・3年生のむし歯・CO・GO・G保有者を対象に、「歯みがき教室」を実施することができた。	B
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	・保健基礎調査を基に、配慮が必要な生徒を把握する。 ・個別に支援が必要な生徒の実態を把握する。	・配慮が必要な生徒の状況を、職員会議等で全職員に周知し、今後の対応に活かす。 ・個別支援教育研修会を実施し、支援が必要な生徒の理解を深める。	B A	・保健基礎調査を基に、「健康上の要観察生徒」について、全職員の個人フォルダーに入れ、情報共有することで、職員が常時閲覧できる環境を整え、健康管理に役立てることができるよう努めた。 ・保健室に来室した際、学校生活等において、困り感を感じている生徒には傾聴を心がけ、必要に応じSCによるカウンセリングを勧め、自分自身との向き合い方等について、アドバイスをいただくことで、困り感の軽減につながるよう努めることができた。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	・地域貢献活動を推進する。	・ボランティア活動等を通して、地域に根ざした活動や地域の方と協働する際、充実した取り組みができるよう支援に努める。	A	・地域の行事等に参加する際、ボランティア委員会以外の生徒にも呼びかけ、積極的に参加を促すことで、地域に対する興味関心を引き出すよう努めた。	A
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	・防災意識の高揚を図り、安全指導を推進する。 ・学校環境の整備と美化に努める。	・避難訓練を通して火災や自然災害に備え、危険を予測できる力や危険を回避的に行動できる力を身につけさせる。 ・校舎内外の安全整備を意識させ、事故防止に努めさせる。 ・清掃や奉仕活動を通して、校舎内外の美化に努める。	A B	・春の地震対策避難訓練、秋の火災避難訓練は計画的に実施することができた。 ・定期的な安全点検を実施しているが、学校全体で取り組む必要がある。 ・今後も継続的に清掃や美化に努める。	B
課題			改善策		
・生徒の健康問題について、保健だよりで発信したり、朝の打ち合わせで担任の先生方に指導していただいているが、健康な生活を送るためにはどのようなすればよいか等については、実際に実践するまでには至っていない。 ・生徒保健委員会の活動を活性化させる。			・根気強く繰り返し保健指導をしたり、情報発信をしたりして、定着するよう取り組む。場合によっては、Classiでの発信も検討したい。 ・加湿機能付き空気清浄機のクリーニングを実施することで、生徒保健委員会が若干ではあるが活性化してきた。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 生徒指導部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース(進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉)を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	①生徒心得の遵守 ②SNS利用マナーの推進 ③生徒会行事の充実	①生徒主体の校則見直し活動の実施。 ②外部機関と連携し、情報モラル教室を実施する。 ③各生徒会行事を生徒主体で企画・運営する。	C B B	計画した方策については、ほぼ実施できたが校則見直し活動については実施できなかった。次年度に向けて生徒主体の校則見直し活動が実施できるように生徒心得の学校HPへの記載、見直しにおける手順については整えていきたい。	B
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	①教育相談の充実と生徒理解 ②学校、家庭との連携	①被害調査、生徒面接、カウンセリングの実施。また、グッドビヘイビアシートの実践による生徒理解。 ②教員間における生徒状況の情報共有と家庭との連携。	B B	計画した方策については実施することができた。今後は教員間における情報の共有をより効率的にできるように工夫していきたい。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	①「友と学びともに鍛える」学校づくり ②地域社会への貢献	①校則見直し活動を通して、自分たちの学校生活を豊かにする学校づくりを行う。 ②総合的な探究の時間における探究活動と学校行事を連動させて地域の美化活動や地域との交流を行う。	C B	計画通りに方策を実施することができなかった。情報の共有を図り、学校内での連携協力をより一層図る必要がある。	C
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	①ボランティア活動の推進 ②家庭への情報提供と連携の強化 ③保護者と連携した生徒指導の充実	①地域の祭礼等への参加を促し、地域住民との交流を通じて地域づくりに貢献できるようにする。 ②学期ごとに生徒指導部だよりを発行する。 ③県下一斉服装指導をPTAと共に実施する。	B A A	計画した方策については実施することができた。来年度に向けて、信頼される学校等して、各機関との連携・協力及び情報の共有を図っていきたい。	A
課題			改善策		
・校則を遵守するという視点から生徒指導を行っているが、校則見直し活動が実施できていないため、校則の遵守の視点や集団生活を円滑に送るためにも生徒主体のルール作りをしていく必要がある。 ・生徒の自己肯定感を醸成するため、グッドビヘイビアやその他の取り組みの工夫。			・生徒の規範意識の向上のための指導 ・生徒指導における教員間での一貫した指導 ・生徒指導提要进行を基にした生徒指導		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 進路指導部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース（進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉）を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	①進路希望実現のための有効な事業計画を立案し、会津西陵高校の進路指導体制を確立する。 ②進路目標達成のために、基礎学力の定着をはかり、進路希望実現を援助する。	①3年間のキャリアプランに沿って、各種進路行事の運営を行う。 ②基礎力診断テストを年間3回実施し、基礎力診断テスト前に1weekを配布し実施させる。 ③教務部と連携し、朝学習を通して、基礎力向上を図る。	B A A	①計画通りに進めることができている。年度後半においても、計画的に進めつつ次年度の計画を立てていきたい。 ②各学年や教科の協力もあり、しっかりと実施されていた。 ③教務部の尽力により、朝学習がしっかりと実施されていた。	A
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	①個に応じた進路指導が実現できるよう、個別指導を充実させる。	①全職員で3学年生徒全員の個別指導割り当てを行い、面接や小論文指導を行う。 ②進学プロジェクト会議を開催し、学校全体で進学・公務員希望生徒の進路指導を行う。 ③進路別学習を2年次後半より実施する。	A B B	①3学年と進路で連携し割り振りをを行い、それに従って全教職員で精力的に個別指導を実施することができた。 ②予定通りに進学プロジェクトを実施することができた。 ③11月より進路別学習を実施しており、計画的に実施することができた。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	①さまざまな機会を通じて進路意識を高める指導を行う。 ②総合的な探究の時間とキャリア教育が結びつく方策を考え、実行する。	①ジュニア・インターンシップを実施し、職業観の理解を深めさせる。 ②学年別による各種進路説明会を実施し、職業観・勤労観を育成する。 ③総合的な探究の時間に進路に関する学習内容を組み込むことを考え、実行する。	A B B	①生徒の感想や企業評価から、非常に効果の高い行事であった。 ②順次計画実施している。ほとんどの行事が年度後半に集中しているため、Bとした。 ③総合的な学習に「探究×進路」発表会という大きな行事を入れることができた。次年度も少しずつ探究と進路で関わられる内容を考えていきたい。	B
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	進路指導室の諸資料の充実・整備に努め、保護者や生徒への情報提供を行なう。	①定期的に「進路希望調査」を行い、面談等に活用できるようにする。 ②定期的に進路だよりを発行し、進路だよりを通じて、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持たせる。 ③学校webサイトの投稿を充実させ、情報発信に努める。	A A B	①学期に1回進路希望調査を実施しており、集計結果をHR担任に配付している。 ②定期的に進路だよりを発行している。 ③進路に関する情報を集めることができるよう、様々な進路サイトにアクセスできるサイトを作成した。	A
課題			改善策		
①3年間のキャリアプラン詳細案が令和7年3月に完成予定である。次年度はその計画に沿って進路行事等を進めていくが、やってみて新たな課題が出る可能性がある。 ②総合的な探究の時間と進路の取組に関する往還を定期的に行う必要がある。			①実施した結果をしっかりと分析し、次年度改善していく。 ②企画開発部と連携を深めていきたい。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 図書部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース（進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉）を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	①図書館への来館者の増加を図る ②生徒の読書率の増加を図る ③朝の読書活動の充実を図る	・新入生への図書館オリエンテーションの実施 ・効果的な配架の工夫により蔵書の効果的な検索を図る ・生徒のニーズに合った選書を図る ・朝の読書活動の支援に努める	A B A	計画的に新入生オリエンテーションを実施することができた。生徒のニーズに合った選書もclassi等の活用により生徒の希望図書を把握できた。	A
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	①蔵書検索システム「カーリル」の活用を促進する ②図書館のSurfaceの活用を促進する	・「生徒」→蔵書検索・本の借り出し等の予約 ・「図書館」→新規購入図書のリアルタイムの情報提供 ・生徒の多様な進路希望への支援	B B	蔵書管理の新システムによりスムーズに貸し出し、蔵書検索が図れた。Surfaceの活用については、探究の時間以外にも進路関係の用途で利用する生徒が多かった。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	①進路指導・地域の課題等の情報発信に努める ②自らの学びの振り返りの援助に努める	・授業・総探・LHRでの活用の推進 ・Surface貸出等により学び得た情報収集の支援 ・朝読の活用を図ることによって生徒の読書習慣の定着を図る	A B	各学年とも、国語科、家庭科、探究の授業、LHRでの活用が図れた。Surfaceの活用についても生徒の活用が図れた。	A
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	①図書委員会活動の活発化を図る ②図書委員としての任務遂行の支援に努める	・図書委員による図書館づくりの支援を図る ・読書週間の企画・活動 ・図書館だよりの作成 ・県立図書館への訪問・研修 ・カウンター当番	B B B	生徒が図書館のカウンター当番、朝読用のコンテナの準備、図書館報の作成、郡山女子大学の図書館見学など責任をもって協力的に活動できた。	B
課題			改善策		
①生徒に対して魅力ある図書館運営と来館者数の増加を図る。 ②図書委員会の活動のより活性化を図る。 ③図書購入費の不足(新規購入図書が少ない)により、各ジャンルの本の更新が困難であるため図書費増額を求めたい。			①図書館の広報と魅力ある図書館企画の促進を図る。 ②生徒主体の図書委員会の活性化を図り、生徒の本への興味・関心を育てたい。 ③次年度のPTA予算での増額をお願いしたい。		

※記入箇所
 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 企画開発部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース(進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉)を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	①学校ルーブリックの活用を図る。 ②朝学習・授業でのICT化を推進し、生徒にICTを適切に活用する能力を身につけさせる。	・学校ルーブリックによる生徒の自己評価の実施・集計を行う。 ・学校ルーブリックの周知・見直しを随時進め、様々な場面での活用を図る。 ・教員を対象としたICT研修を実施する。	B B	・学校ルーブリックの自己評価を行った。結果を分析し、職員会議で提示した。各行事でのルーブリックとの紐づけをしていく必要がある。 ・朝学習のSurfaceの貸し出しや、教員向けICT研修を実施した。 ・1学年の端末配布・各種設定などを行った。	B
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	①個に応じた指導のためのICTの活用を図る。	・生徒にICT機器の利用を通じて、個に応じた学習ができるよう、各部と連携する。 ・Classiを有効活用し、HR活動や進路活動と連携できるようにする。	B	・Classiの活用を図ることができた。 ・朝学習では、Classiと模試の連携を利用し、個別に異なる学習動画を利用することができた。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	①3年間を見通した総合的な探究の時間の計画・運営を図る。 ②総合的な探究の時間における地域との連携を進める。	・総合的な探究の時間及び各発表会を計画・運営する。 ・生徒へ現代社会の課題を把握させ、そこでどのように生きていくべきかを考えさせる。その考えを他者にわかりやすく伝えられるようにする。 ・役場や各種学校との繋がりを深め、地域との連携を進める。	A B	・総合的な探究の時間成果発表会をじげんホールで行い、3年生全員が発表することができた。計画運営についてもスムーズに行うことができた。 ・役場などとのつながりがある一方で、それぞれの活動が単発的になりがちで、継続的な活動につなげられていない。 ・探究内容の深化が必要である。	B
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	①学校ルーブリックによる評価を行う。 ②総合的な探究の時間における地域との連携を進める。	・学校ルーブリックによる生徒の自己評価を行う。 ・「総合的な探究の時間」での地域との連携を一層進める。 ・Classiを効果的に利用し保護者への情報提供を進める。	B B	・地域とのつながりは総合的な探究の時間やボランティア活動などで進んでいるが、各活動の横と縦のつながりを深めていく必要がある。 ・学校ルーブリックの自己評価についてはまだ未実施のため、計画に基づいて行いたい。学校ルーブリックの周知については不十分である。	B
課題			改善策		
①学校ルーブリックの活用と周知が不足している。 ②総合的な探究の時間の時間の探究活動の内容の深化が必要である。 ③生徒の一人一台端末の1学年向けの配布・説明は円滑に行うことができた。 ④地域との連携を単発ではなく、定期的・継続的に行う体制を作る。			・ルーブリックによる評価・集計の実施 ・ルーブリックの見直し ・探究活動担当者と生徒との「対話」を設ける ・来年度へ向けた計画立案		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 総務部

評価基準 A: 目標を十分に達成することができた B: ほぼ目標を達成することができた C: 目標の一部を達成することができた D: ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】	努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
教育環境の充実					
○キャリア指導推進校として ・多様な進路希望を実現させるために4つのコース(進学探究・教養探究・情報会計・健康福祉)を設定し、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成する。 ・朝学習を活用し学習習慣の確立と個別最適化された学びの実践を行う。 ・学びに向かう姿勢を醸成する観点別評価の実践と研究を行う。	・PTAの立場として、生徒が学びを進めていく上で必要となる支援を行う。	○役員や委員長と連絡を取りながら、PTA各委員会の計画に沿った活動を進める。 ○学校行事の際にPTAとして協力できる場面で協力できるようにする。	B	○各委員会における活動も計画的に進められた。また、県大会や全国大会においても役員の方々のご協力をいただいた。	B
○個別支援教育推進校として ・教育相談活動を充実させ、家庭との連携を図り、生徒一人ひとりの可能性が十分生かされるよう、教育方法・内容を工夫する。	・PTAとして生徒個人の可能性が生かされるような援助を行う。	○PTAの活動を通して、生徒が抱えている問題を見つけたり、それらを解決するための手立てを考えたりできるようにする。	B	○県大会や全国大会で他校の発表を受けて、生徒が抱える問題等についての情報が共有できた。	B
○総合的な探究の時間を学びの柱として ・地域をフィールドとした探究学習を推進し、協働して課題を解決する能力を育成する。	-	-	-	-	-
○信頼される学校として ・適切な学校評価を行い、PDCA組織マネジメントを機能させ、常に本校の果たすべき役割を実践していく。 ・地域や保護者と連携した教育活動を展開し、社会に開かれた学校づくりを推進する。	・地域や保護者との連携を推進する。	○PTAや同窓会から発行される広報誌の充実を図る。 ○同窓会の活動内容を会津美里町や会津坂下町に周知する。	B	○PTA会報や同窓会会報は2月末日発行に向けて、記事の内容を精選しながら進められた。	B
課題			改善策		
○今後PTAに加入しない保護者が出た場合の対応と活動内容の精選			○活動内容の発信 ○PTAや同窓会の広報誌の充実		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 国語科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	課題を理解、発見するために必要な基礎知識を習得させる。	○学習の方法を具体的に示し、定期考査や語彙等の小テストを目標に、粘り強く学習することが基礎学力の定着につながることを理解させる。	B	それぞれの学年で漢字・語彙の小テストを実施したり、考査の際は学習のポイントを提示するなどしながら、学習機会を作り学力の定着につながるよう取り組んだ。情報機器も調べ学習だけでなく、編集作業や思考の深化、グループワーク等の場面にも効果を見計らいながら使用してきた。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	情報を読み取る力を習得させる。考えの深化や発信等にICTを活用できるようにする。	○論理国語や現代の国語で情報の読み取り方を理解させる。授業内で端末機器等を活用できる場面を多く作るようにする。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	自らの人生を切り開いていくために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	○幅広いジャンルの文章に触れ、情報を読み解く、自分の考えを持つ、批評や討論をする等の活動をバランスよく行う。	B	国語表現でのインタビューや先生への手紙、礼状作成、電話のやりとり、小論文作成など、実際の場を意識した授業を展開した。評論も幅広い分野の文章に触れるよう計画しているが、情報の抜き出し・読み取りにまだまだ課題があるので、今後も継続して学習させていきたい。	B
	○表現・発信する力	目的に応じて自分の考えを的確に表現・発信できる力を育成する。	○実際に遭遇する場面を意識させながら実践させる機会を多くつくり、伝え合う力の向上を図る。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	家庭学習の習慣を定着させる。	○本校生の実態を把握した課題を適宜提示し、個人に対応した指導を心がける。	B	・長期休みの課題、進学クラスへの週末課題、単元はじめの語句の意味調べなど、学年ごとにそれぞれの生徒の実態に合わせた課題を実施しているが、個人に対応し、習慣づけるところにはまだ至っていない。 ・グループワークを多く実施したり、端末での情報共有などしながら、他者の意見に触れる機会を多く持たせた。 ・本のポップ作成や長期休みの読書課題などで読書の機会の提供を行っている。 ・漢字検定は人数は集まっているが、合格率の向上が課題である。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	集団の一員であることを自覚させ、協働的姿勢を育成する。	○グループワーク等を数多く設定し、多様な意見に触れながら、生徒同士の協働による問題解決の機会を作る。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	読書することを通じて、課題に対応する視野を広げ、興味を高めさせる。漢字検定への積極的な挑戦を促す。	○授業や課題等で読書の機会や、おすすめ本を紹介する機会などを設定する。漢字検定の案内を丁寧に行う。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		地域に貢献できる人材を目指して、国語を積極的に学ぶ生徒を育成する。	○総合的な探究の時間との関連を意識させ、物事の本質を捉え、自分の意見を発信していくためには国語の力が重要だということを理解させる。 ○進路指導部と連携し、国語表現の時間を使って、面接や小論文の基礎を指導する。	B	・探究活動との関連を意識し、国語表現は授業を進めている。スキルの提供はできているが、ただ言葉をテンプレートに当てはめるだけで、論理を意識することができないままの生徒もいるなど、実際の思考力・表現力の向上はまだまだ課題がある。 ・国語表現の時間を使って、面接や作文・小論文、グループディスカッションなど、就職・進学試験につながるような指導を行っている。学んだことを実践の場にリンクできているかは疑問が残る。	B
課題				改善策		
・定期的な学習習慣・学習意欲につながるような課題の提供ができていない。 ・学んだことを実践の場にリンクさせていく力の不足。				・生徒が興味を持って取り組めるような課題の検討を進める。個人にあった課題提供に向けた情報収集・検討を行う。 ・国語の場面に限らず、本校生全体の課題であるように感じている。全体のカリキュラムを横断的に見渡すなどして、皆で声かけをしていく必要がある。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 地歴公民科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○基礎・基本の定着を図る。 ○地域の歴史や文化に関する興味・関心を高める。	○授業内容を精選し、社会人として必要な内容を確実に身に付けさせる。 ○郷土史を教材として取り上げる。	A	どの科目も授業内容を精選できている。 ・歴史総合・日本史で郷土史を取り上げた。 ・歴史総合や日本史で家庭学習課題を配布し、主体的な学習を要求した。	A
	○情報・ICT活用能力の育成	○資料を読み取り分析する力を育成する。	○ICT機器を活用し資料を提示する機会やグループ活動の機会を設ける。	B	複数の科目で、ICT機器による資料提示を頻繁に行なった。 ・地理総合・世界史でグループ活動の機会を度々設けた。	
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○現代の世界や社会に対する興味・関心を高める。	○タイムリーな事項を積極的に取り入れ、授業内容との関連を意識させる。	A	・公民科目で、タイムリーな話題をひんばんに提供した。公共では、町議会を傍聴しに出向いた。	A
	○表現・発信する力	○自己の考えをまとめ表現する力を養う。	○調べ学習やグループでの話し合いの機会を設け、コミュニケーション能力の育成を図る。	B	・地理総合・世界史でグループ活動の機会を度々設けた。	
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力			B		B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○政治や社会の主体となるために必要な資質を養い、学びに向かう力を身に付けさせる。	○テーマを設定し、資料をまとめ発表する活動を積極的に取り入れる。		・複数の科目で、テーマ学習や調べ学習を度々実施した。	
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力					
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○地域の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、地域の魅力の発掘や現代の諸課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする態度を養う。	○地域の歴史や文化に対する興味・関心を引き出し、総合的な探究の時間の地域探究活動に対して主体的に取り組む姿勢を育てる。	B	・歴史総合・日本で郷土史を取り上げ、公民科目でタイムリーな話題を提供した。	B
課題				改善策		
教科全体としては目標が達成できている。				今の授業内容に満足することなく、それぞれの方策がより生徒にとって効果的なものになるように、研修に努める。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 数学科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○基礎学力の定着を図る。	○学年・コースに応じた授業展開をし、生徒が目標を意識して授業に取り組めるようにする。	B	○単元や本時の目標を理解できるようにして授業を展開できた。 ○デジタル教材で視覚的に理解を図った。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	○ICT機器などを使って理解を促す。	○デジタル教科書などを活用する	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○ある程度できると認識している生徒に対しては、より高い目標が設定できるようにする。	○大学入試問題への取り組みや、数学検定の受検を促す。	B	○入試問題への取り組みと数検2回とも実施できた。 ○板書や発問を通して発表する機会を設けた。	B
	○表現・発信する力	○問題に対する自分の考え方や解法を表現できるようにする。	○自分の考えを発表する機会を設ける。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○学習した内容や既習内容の復習を自らできるようにする。	○朝学習や長期休業中の課題、課外などを活用して復習の機会を設ける。	B	○課題などで学習内容の確認を図った。 ○他者と相談しながら問題を解決していく場面が見られた。 ○手順を切り分けて理解を促した。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○他者と協働して授業に取り組めるようにする。	○少人数学習の中で生徒同士が教え合う機会を積極的につくる。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	○学習内容で分からないことをを簡単に諦めてしまわないようにする。	○問題解決までの道筋を段階的に設けて理解を図る。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○数学を苦手とする生徒が多いので、その生徒に対して学習の支援を行う。	○授業時間内や放課後の時間を活用しての個別指導を行う。	B	○授業外の時間も活用して学習支援を行った。考査前に放課後学習会を行った。	B
課題				改善策		
○上級学校進学生徒への手当て ○基礎学力が定着していない生徒の学び直しの機会の確保				○進路目標達成までの指導の継続 ○教材の精選		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 理科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○各科目において日常生活や社会との関連を図りながら、現象への理解を深める。	○学習内容と日常生活との関連する事例を取り上げ、生徒の興味関心を喚起する。	B	○各科目で日常との関連を見出しながら授業内容の工夫はできた。 ○実物の入手や実際の実験が困難なものなどはICTの活用を行った。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	○教科指導の中でICT機器の活用を取り入れる。 ○学習成果の整理等でICT機器の活用を図る。	○演示実験・観察・視聴覚教材などにICTを積極的に活用し、生徒の理解を支援する。 ○実験結果の整理の場面等でのICT機器の活用を図る。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○自然に対する関心や探究心を高め、観察・実験を行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。	○各科目ともに生徒実験を年間3回以上実施するようにし、科学的に観察する力を習得させる。	C	○実験の機会・時間を確保し、データの分析や結果の考察を計画的に進めたい。探究の中間発表や成果発表につながるような基礎を養いたい。	C
	○表現・発信する力	○結果や事実を論理的に表現し、発信する力を育成する。	○実験の結果をレポートとしてまとめ、発表する力を身につけさせる。	C		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○家庭学習の習慣を定着させる。	○本校生の実態を把握した課題を適宜提示し、個々人に対応した指導を心がける。	B	○Classi, Classroomを活用して課題を配信し、家庭学習の機会をつくった。進学者に向けた個別指導を行うことができた。 ○実験以外の科学的事象についてはあるが、グループワーク等の協働的な授業形態の工夫はできた。 ○内容の理解で諦めてしまう生徒もあり、学習意欲の向上や基礎学力の定着に向けて継続して取り組む必要がある。	B
	○集団の一員として自己や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○学習活動を通して、クラスメイトと協働する姿勢を育てる。	○生徒実験などの学習活動を通して、目的を達成するためにクラスメイトと協働することを経験させる。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	○総合的な探究の時間など、科目横断的な課題解決の場面で教科の枠にとらわれずに支援する。	○理科での学習内容を総探での課題に関連付け、問題解決に繋げられるよう支援する。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○進路実現に関わる個別指導の充実に努める。	○推薦入試の口頭試問等の情報収集に勤めるとともに、必要に応じた個別指導を行う。	B	○総合型・指定校選抜における面接練習などの個別指導を行うことができた。	B
課題				改善策		
○理数系科目への苦手意識の克服、数学的処理の基礎の定着 ○実験の計画と実践、結果の考察とまとめの基礎を養う				家庭学習の習慣が定着するような仕掛け、工夫授業内容の精選、教材研究		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 保健体育科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	○各種目の実践を通して、体力の向上を図り、運動に関心をもたせる。	B	・各種目の実践を通して、スポーツを楽しむ、喜びを見つけるなど、体力の向上が図れた。 ・ICTの活用については、実技テスト等で活用することができた。	B
	○情報・ICT活用能力の育成		○練習方法や自主的に取り組めるよう、ICTの活用ができるようにする。○保健については、心肺蘇生法等の応急手当を取り上げ、基本的な技能を身に付けるようにする。	C		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	○新体力テストを通して、現段階の自身の体力を把握させ、普段から運動をすることの重要性を理解させる。	B	・新体力テストの結果から、A段階者が男女20名、B段階者が56名であったが、1年生男子のA段階者は0であった。 例年、目標数値より下回っている結果である。 ・今後も継続的に指導していく。 ・スポーツ理論や演習では、活動ができた。	B
	○表現・発信する力		○相手を尊重し、礼に始まり礼に終わるという礼儀作法を重点的に身につけさせる。 ○レポートの作成、発表、グループでの話し合いなどの活動ができるようにする。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。	○健康安全に関する実践力を身につける。	B	・授業前の体調確認や施設・道具類の安全確認をしてから、授業に取り組んだ。 ・徹底させるよう指導をしている。 ・実施することができた。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力		○安全に考慮し、指定された服装で授業を受けるよう指導する。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力		○施設や道具の安全を事前に確かめながら授業を展開できるようにさせる。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○地域スポーツの振興発展にかかわることができる人物として、資質 や能力を身に付ける。	○専門学習から実技学習を通して、スポーツに関する知識や技能を身に付け、適切に発信や表現することができるようにする。	B	・スポコミ大会を強歩大会に合わせて、実施することができた。 ・スポーツボランティア講習への参加 ・金津美里町開催ウオーラリーにボランティアとして参加し、地域スポーツの振興発展に協力することができた。	B
課題				改善策		
○運動が苦手な生徒や運動技能が低い生徒への、指導の工夫及び対応の仕方。 ○基本的な学校生活が身につけていない生徒が見られる。(授業開始の時間に遅れる、準備不足など)				○繰り返しの指導やきめ細かい指導が必要であるので、今後も継続していく。 ○実技の中でも、ICT活用を実践していく。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 英語科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	コミュニケーションの土台となる、発音や基礎的な単語、文法事項の定着を図る。	B	中学校の内容を含め、既習事項を繰り返し、確認しながら定着を目指している。 今後も既習事項の定着を目指し、粘り強く、繰り返し生徒に活動を促す必要がある。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	ICT機器などを利用したり、情報や考えなどを的確に理解する能力を養う。	ICT機器を使用したり、情報や考えを整理する活動の機会を作る。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	読んだり聞いたりしたことを適切に理解できる。	生徒の学習段階に応じた、4技能育成のための教材を用意する。	B	ALTとのTTなどを活用しながら実施している。 今後も毎回の授業の反省をもとに、活動を洗練させたい。	B
	○表現・発信する力	情報や考えなどを的確に理解したうえで、適切に伝えたりする能力を養う。	個人、グループなどによる発表ややりとりの機会を多く作る。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	自分の強みや弱み、学習履歴を客観的に確認し、望ましい方向へ修正してゆく能力を養う。	音読や小テスト、定期考査などを実施する。	B	生徒や科目の特性に応じて実施中である。 今後も継続して取り組んでいきたい。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	個人、グループなどによる発表ややりとりの機会を多く作る。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	粘り強く学習に取り組む姿勢を養う。	「失敗」を奨励し、場面に応じて、生徒の自由な発想や意見も尊重する。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	生徒の理解度を確認しながら、授業を進める。学習内容を定着させるために、繰り返し言語活動を行う。コミュニケーションの土台となる、発音や基礎的な単語、文法事項の定着を図る。	B	どこまで到達したかも大切だが、本校の場合、(入学後から、あるいは今年度)どれだけ成長したかという視点も大切だと思う。 学年もさまざま、生徒の能力や進路希望もさまざま、教員の指導に対する考え方もさまざまな状況で、学校経営・運営ビジョンに基づいて科としての目標を作り、評価することに、大変な困難を感じている。	B
課題				改善策		
・学習習慣の確立と学習事項の定着				・科目や内容に応じて授業の進め方を大きく変えるなど、生徒の学習意欲を引き起こす授業形態や手順などを、引き続き検討してゆく		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 芸術科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	基礎的な知識の習得や技能の育成を図る。	基礎的な知識や技能について繰り返して指導し、各表現活動に対して効果的な表現ができるように工夫させる。	B	少人数制の授業の実施により、個別指導に重点を置きながら指導することができているため、基礎的な知識・技能については定着させることができている。今後は通信機器等の活用も充実させていきたい。	B
	○情報・ICT活用能力の育成		ICTを活用した調べ学習を取り入れ、表現の向上をはかる。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	自己のイメージをもって表現を工夫したり、発表したりして、個人評価・相互評価を取り入れながら、個々の伸長を図る。	A	じげんホールでの展覧会鑑賞やゲストティーチャー授業の実施など、本物に触れさせ、芸術のよさや美しさを味わう機会を作ることができた。	A
	○表現・発信する力		様々なジャンルの芸術文化に親しみ、本物に触れさせながらより良いものを感じ、見識を広げるとともに豊かな感性を育む。	A		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	芸術への興味関心を高め、主体的・協働的に芸術の幅広い活動に取り組み、個性豊かな人間性を育成する。	作品や演奏の鑑賞する時間を設け、個人評価や相互評価をさせる。	B	作品制作や演奏発表など表現・発信する機会を多く作ることで、学習意欲を促し自主的な活動につなげることができた。知的財産権や文化継承など、折を見て日常生活との繋がりを意識させていきたい。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力		芸術に関する知的財産権についても触れ、文化継承、発展、創造を支えていることを理解させる。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力		教材の取り扱いを考慮し、生活の中にある美的要素に気付かせる。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		芸術や文化に対する理解を深め、積極的に自己を表現しようとする態度を養う。	本物に触れさせる機会を作る。また、個別指導に重点を置き、個々の伸長を図りながら自己を表現する機会を作る。	B	2・3年生に関しては、端末学習が身につけてきており、調べ学習やスライド発表を通して自主的な活動やスライド作成・発表の工夫につなげることはできている。今後は演奏や作品制作における表現を工夫するための活用法を探ってきたい。	B
課題				改善策		
○芸術への興味・関心を高める教材や鑑賞教材を精選し、様々な知識や想像力を伸ばす。 ○授業の中で完結するのではなく、生活や社会に関連付けられるような課題を設定し、生徒が自ら課題を見つけ意欲的に工夫して取り組めるような指導をする。				○生徒の興味・関心を広げる工夫が必要。実態に即した教材・目標の改善も含めた授業計画を立てる。Surfaceなど通信機器をうまく活用し、理解を深めさせていきたい。 ○生徒個人の理解力に差があるため、個別指導に重点を置きながら、すべての生徒が達成感を味わえるような指導の工夫。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 家庭科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○生活に関する基礎知識・技術の定着を図り、地域・実生活で活用できる実践力を育てる。	○生活技術向上のため、十分な実技指導を行い練習過程や結果を評価する。	A	・食材の切り方、調味料のはかり方などの基礎テストを行い、段階的に知識・技術の定着をはかった。 ・教科によってICT機器を活用する機会に差があったため、次年度は検討していきたい。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	○資料を読み取り、分析する力を育成する。	○ICT機器を活用し資料を提示する機会やグループ活動の機会を増やす。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○生活の中から問題を見いだして課題を設定する力を養う。	○家庭生活での問題点を意識させるような内容を積極的に取り入れる。	B	・実践例をもとに、生徒それぞれが実生活に則した生活上の課題を設定し、取り組むことができた。	B
	○表現・発信する力	○家庭生活の問題点について、自分の考えをまとめ、表現する力を養う。	○ホームプロジェクトの発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。	A		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○家庭科で学習したことをもとに問題意識をもって日常生活を見つめ直す力を身につける。	○家庭科の学びを生かし地域貢献やボランティア参加などの意欲を持たせる。	B	・福祉関係の分野で地域の外部講師を活用した体験授業を取り入れた。また、専門科目では手話、点字、車椅子の介助等の体験を実施し、バリアフリーの観点から生徒に働きかけ興味関心を持たせることができた。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○家庭生活や地域社会に貢献する勤労意欲を育成する。	○体験学習や疑似体験学習、外部講師を招いた学習を取り入れ生活全般への興味関心を持たせる。	A		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	○課題を発見し、家庭生活の充実・向上をめざす力を身につける。	○ホームプロジェクトを通して生活上の課題を設定し、解決に向けて生活を科学的に探究したり、創造したりする機会を増やす。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○家庭科で学習した専門的な知識・技術や学習意欲の向上を図る。	○家庭科技術検定の資格取得を通して、進路希望実現のための意欲を持たせる。	B	・1学年全員と2、3学年の希望者に食物調理4級、被服製作4級試験を実施、2・3学年では食物調理、被服製作3級、2級試験、保育技術検定を一部の授業選択者と希望者に実施できた。	B
課題				改善策		
家庭科の学習目標を達成するために必要な実験・実習の効果的な実施方法の検討				積極的に研修等に参加して様々な情報から本校の生徒に取り入れていきたい方		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 情報科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○情報における基礎的知識の向上	○情報の概念やその価値を生活の中から事例を多く活用し、理解の向上に努める。	B	○1学期のうちである程度の基礎的概念は取り上げた。 ○WordやExcelでデータ処理技術を身につけた。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	○情報機器の基本的操作技術の獲得	○ワープロソフトや表計算ソフトを活用し、ビジネス文書や集計処理等のスキルを身につけさせる。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○情報扱う上での問題点を考える	○情報の特性を理解し、普段扱う上での注意点を考える。	B	○問題点は理解している。 ○実際の場面で安易に発信してしまう生徒もいる。	B
	○表現・発信する力	○情報発信の適正化	○情報を表現・発信する際に、どのような点に注意すべきかを考えることができるようにする。	B		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○情報とは何かを確認する。	○普段様々な情報を扱うときに注意すべきことを意識できるようにする。	B	○情報そのものは理解が図れた。 ○モラルのある行動ができない生徒もいた。 ○Pythonの実習では特に意欲的に取り組んでいる生徒が多かった。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○情報モラルの向上	○様々な事例を活用し、情報社会で適正な活動を行えるようにする。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	○アプリケーションを扱う際に意欲を持って取り組めるようにする。	○他者と協力しながら自らの技術向上に努力する。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○コンピュータスキルに関する資格の積極的な取得	○ビジネス文書検定3級の積極的な受験を促し、合格に向けた指導にも力を入れる。	B	○1年生12名の申込者があった。	B
課題				改善策		
○知識としてだけではない情報モラルに関する指導				○情報モラル講座や場面に即した教材の活用		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。
 中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。
 年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。

令和6年度 商業科

評価基準 A:目標を十分に達成することができた B:ほぼ目標を達成することができた C:目標の一部を達成することができた D:ほとんど目標を達成することができなかった

【学校経営・運営ビジョン】		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
育てたい資質・能力	具現化したもの					
知識・技能	○地域的・社会的な課題に対する知識・理解(基礎学力の定着、対話的主体的で深い学びの実践)	○会計・情報・流通の各分野の基礎的知識を習得し経済社会に貢献できる人物を育成する。	○地域の存在する企業の種類や売買取引の決済手段を学ぶ、ワープロソフト、表計算ソフトを使いこなすことができる。	B	○実技を伴う科目では、基礎的な技術を習得できた。 ○検定試験は、計画された試験を2年生で一部欠席者がいたが、そのほかは全員が受験し多くの生徒が合格を果たした。	B
	○情報・ICT活用能力の育成	○データを正しく分析・加工して発信できる能力を育成する。	○検定試験をとおして知識・技術の習得を確認する。	B		
思考・判断・表現	○現状を正しくとらえて課題を設定する力	○情報を加工したり、金銭の動きを会計的に捉える事ができる。	○検定試験をとおして考えを表現できる。	B	○与えられた情報をワープロソフト、表計算ソフトを用いて適切に加工、表現できている。また、プログラミング、ネットワーク活用では、出力結果の求め方を道筋を立てて考えられるようになった。 ○ビジネスコミュニケーションでは、社会人としての立ち振る舞いや礼儀作法、ビジネスの場面で必要とされるコミュニケーションの取り方をはじめ、身に付けておかなければならないマナーも習得できた。	B
	○表現・発信する力	○与えられたデータを文章やグラフなどで適切に表現できる。	○コンピュータを用いて表やグラフを作成できる。	A		
学びに向かう力・人間性	○学びを振り返る力	○商業特有の用語を学ぶことが多いため、復習に力を入れる。	○前時間の復習を多く取り入れることで、学習の定着を確認する。	B	○毎時間、内容の振り返りを行い、授業を進めることができている。 ○年間をとおして検定試験に対する取り組みは、授業のみならず放課後の課外に休むことなく出席するなど前向きな取り組みが見られた。計画した検定試験は全員が受験し、一部検定を除き教師が目標としていた合格者数をほぼ達成した。	B
	○集団の一員として自他や社会のより良い在り方を目指し取り組む力	○他者と協力し地域や自己の課題を解決できる。	○総合的な探求の時間と連携し、課題解決を図る能力を身に付ける。	B		
	○答えのない課題にも諦めず粘り強く取り組む力	○検定試験をとおして学習の定着を図る。	○定められた検定試験は全員が必ず受験する。	B		
教育環境の充実		努力目標	具体的事項(方策)	項目評価	コメント	総合評価
○キャリア指導推進校として ○個別支援教育推進校として ○総合的な探究の時間を学びの柱として ○信頼される学校として		○地域経済を支えるビジネスのスペシャリストとして会計・情報・流通の各分野の知識・技能を身につけさせる。	○実技実習を通して3分野の知識・技能を身に付け、自己の考えを適切に発信・表現することができる。	B	○高校卒業後における社会人として必要なビジネスマナーや会計処理能力、情報処理能力について知識や技術の習得について理解させることができた。 ○地域の課題を発見し、他者と協力し合って課題解決に向けて活動できた。	B
課題				改善策		
○2年生は商業科目の内容を初めて学ぶものばかりであるため、慣れない部分が多く戸惑いを感じる部分が多々あったが、多くの生徒が意欲的に授業に参加できていた。 ○計算が得意でない生徒については、次年度以降もビジネス基礎の授業を活用しながら計算能力を向上させていく。				○2年生の授業はチームティーチングの形態により授業の遅れが心配される生徒に対して補助できた。 ○計算能力の向上は、ビジネス基礎の時間で授業開始時に電卓計算を行わせ、電卓検定なども利用し能力の向上を図った。		

※記入箇所 年度始め : 「努力目標」と「具体的事項(方策)」を記入する。

中間評価 : 努力目標に掲げた項目ごとに「項目評価」と「コメント」を記入し、「総合評価」を出す。中間評価までの「課題」と年度末までに取り組む「改善策」も記入する。

年度末評価 : 中間評価の内容に修正等を加え、1年間の評価を行う。